



**YANMAR**

# CSR報告書 2013

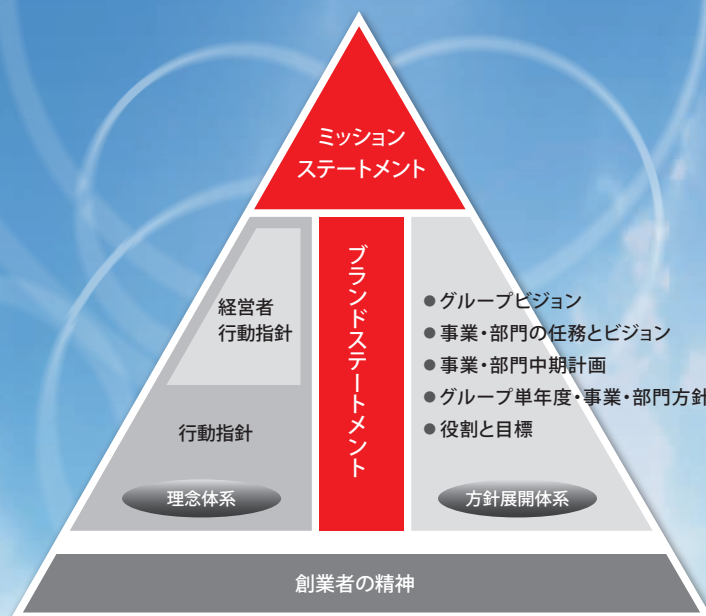
Corporate Social Responsibility Report



# Mission Statement

ミッションステートメント

わたしたちは  
自然と共生し  
いのち  
生命の根幹を担う  
食料生産とエネルギー変換の分野で  
お客様の課題を解決し  
未来につながる社会と  
より豊かな暮らしを実現します。





## 行動指針(YANMAR11)

1. お客様にとっての価値を自問自答し、最適なソリューションを提供せよ。
2. 現場、現物、現実を直視せよ。
3. 結果を出すことに執念を持て。
4. 受身になるな。自らが活動の起点となれ。
5. 世界で勝てるスピードで動け。
6. 当たり前を疑え。創意工夫せよ。
7. あらゆる壁を壊せ。連携し、総合力を発揮せよ。
8. 同質化するな。異なる意見をぶつけあえ。
9. 安住するな。世界に挑め。
10. 将来目標を持て。自分を磨け。
11. 社会規範を遵守せよ。  
社会課題の解決に貢献せよ。

ヤンマーグループ全役員・社員を対象とする

行動指針は、ミッションステートメントを実現するための行動や判断の指針となるものです。私たちにとって最も大切なお客様に関わる指針から始まり、自己研鑽やコンプライアンスに関する指針で締めくくっています。

## ブランドステートメント

### Solutioneering Together

ブランドステートメントは、ヤンマーグループのミッションステートメントを時代に応じて簡潔に表し、社内外に伝えるものです。YANMARブランドの提供価値や企業活動の方向性をお客様に約束するものです。

## グループビジョン

お客様が得る生涯価値を最大にすることでお客様のゆるぎない信頼を獲得する。

ミッションステートメントと事業・部門の任務とビジョンをつなぐものであり、ヤンマーグループが目指すべき目標像とお客様への価値提供の姿勢を示しています。

## 創業者の精神

美しき世界は感謝の心から

## 燃料報国

創業者の精神とは、ヤンマーの企業活動の原点であり、創業者から代々受け継がれ、未来へ引き継ぐべきヤンマーのDNAです。

## 目次

|  |    |
|--|----|
| ヤンマーグループの事業領域                                      | 2  |
| トップメッセージ   | 4  |
| プレミアムブランドプロジェクト                                    | 6  |
| ミッション研修会   | 10 |
| 特集   |    |
| 1 100年の歴史と未来への取り組みを伝える<br>ヤンマーミュージアム               | 14 |
| 2 製品一台一台を見守ることで、<br>高品質なサービス提供を可能にする<br>「スマートアシスト」 | 18 |
| 3 グローバルに活躍できる<br>人材の育成を目指して                        | 22 |
| ヤンマーグループのCSR活動                                     | 26 |
| ■ 組織統治   | 28 |
| ■ 人権・労働慣行  | 30 |
| ■ 環境   | 32 |
| ■ 公正な事業慣行  | 42 |
| ■ 消費者課題  | 44 |
| ■ コミュニティ参画・発展                                      | 46 |
| 会社概要／編集方針  | 54 |

●「Solutioneering」はSolutionとEngineeringの造語です。  
ヤンマーの強みとする工学技術(Engineering)を駆使して、お客様が抱える課題や問題点を解決していくことを意味しています。

## ●Webサイトのご紹介

<http://www.yanmar.co.jp/csr/>

### Webサイトのみのコンテンツ

- 環境方針
- 環境マネジメント体制
- 環境会計
- サイトレポート
- ヤンマーグループの環境保全活動の歩み

# Business Field

ヤンマーグループの  
事業領域

## 3つのフィールドで ソリューションを提供

大地  
Land

ヤンマーグループが対象とする事業フィールドは「大地」・「海」・「都市」。  
それぞれのフィールドでは、多用途の建設機械を提供する建機事業、  
省エネルギー技術の多様な展開に取り組むエネルギーシステム事業、  
オリジナリティの高い製品を開発するコンポーネント事業、  
日本とアジアを中心にグローバルに農作業を応援する農機事業、  
創業の原点を受け継ぐ小形エンジン事業、  
高品質で高い信頼性を誇る大形エンジン事業、海洋環境との共生をめざす  
マリン事業など7つの事業が独自の強みを発揮し、  
多彩なSolutioneeringを展開しています。

農業は生命の根幹を支える事業と捉え、国内ではプロ農家からホビー向け農業機械の提供、海外ではアジア諸国を中心に農作業の機械化・一貫体系化・施設化を通じて豊かな「食」の追求に取り組んでいます。



大地

7つの  
事業

海

都市

### 小形エンジン事業

環境指向商品 (P.36)

小形産業用ディーゼルエンジンのバイオニアとして、業界トップクラスの商品の生産・販売・開発・サービスを行っています。  
●生産品：産業用小形ディーゼルエンジン、燃料噴射系精密部品など

### 大形エンジン事業

環境指向商品 (P.36)

生産・販売・開発・サービスが一体となり、お客様価値向上を目指すビジネスモデル (L. C. V) を展開しています。  
●生産品：船舶推進用 / 発電用ディーゼルエンジン、産業用 (陸用) ディーゼルエンジン、ガスエンジン、ガスタービンおよび関連システム商品

### マリン事業

環境指向商品 (P.36・37)

マリン (業務用・プレジャー) 分野において、パワフルで安定したパフォーマンス、経済性と信頼性の高いエンジンを世界のマーケットに提供しています。  
●生産品：中小形マリンディーゼルエンジンおよび関連システム商品、環境海洋関連商品、FRP 製プレジャーボート、小型漁船、活魚水槽、ポンツーンなど

# 海 Sea

# 都市 Urban

快適なマリンレジャーや、安全な航海と環境との調和を追求した船舶用エンジン・推進システムの開発、さらに、水産業における漁業の活性化や養殖技術の多面展開など、人と海洋環境との理想的な共生を目指しています。

官民さまざまな施設やビジネス環境、住空間が集積する都市で、再生可能エネルギーの活用や、コージェネによる電力と熱エネルギーに変換するシステムなど、次代の街づくりにふさわしいエネルギーの有効利用を目指しています。



## 農機事業

環境指向商品 (P.37)

I-HMT (電子制御式油圧無段変速トランスミッション) や ICT を活用した農業情報の収集など、最新の技術を採用した製品群を提供しています。

●生産品：トラクター、コンバイン、田植機、耕うん機、管理機、農業施設、選果施設、無人ヘリ、農業関連資材など

## エネルギーシステム事業

環境指向商品 (P.38)

GHP やコージェネ・非常用発電機など、省エネ・防災機器を、高い技術力でソリューション提案を実践。再生可能エネルギーなど新たな市場にも事業拡大をしています。

●生産品：マイクロコージェネ、ガスヒートポンプ、非常用／常用発電システム、ポンプ駆動システム、太陽光発電システムなど

## 建機事業

環境指向商品 (P.38)

後方超小旋回型ショベル「VIO シリーズ」や超小旋回型ショベル「Σシリーズ」をはじめ、小型発電機や投光機など、小型建設機械をフルラインアップ展開しています。

●生産品：ショベル、ホイールローダー、キャリヤ、小型発電機、投光機など

## コンポーネント事業

環境指向商品 (P.38)

独自の油圧制御・歯車加工技術を保有し、グループ間のコラボレーションで高効率無段変速トランスミッションをはじめとする差異化製品を供給しています。

●生産品：油圧機器、歯車、トランスミッション、マリンギヤ、工作機械など



# Top Message

## トップメッセージ

創業101年目の新たなスタートラインに立ち、私たちは今、200年目のヤンマーを見据えています。生命の根幹を担う「食料生産」と「エネルギー変換」の分野で、ヤンマーにしかできない最高の品質やサービスをお客様に提供し、持続可能な社会の実現に貢献する企業グループを目指してまいります。

2012年3月に創業100周年を迎えた当社グループは、さらなる飛躍のため新たな成長への取り組みを開始いたしました。100周年の節目に、これからのヤンマーグループの方向性を明確に示した「ミッションステートメント」を掲げましたが、その実践に創造性をもって取り組み、お客様の想像や期待を超える驚きと喜びを提供する企業グループに変革を遂げたいと思います。

昨年を振り返りますと、ロンドンオリンピックの開催や、米国経済のゆるやかな回復など明るい材料もありましたが、欧州債務問題の長期化、新興国経済の減速など先行き不透明なことも多く、経営環境は予断を許さない状況が続いています。このような状況に対応すべく、慎重さを持ちつつもグループの更なる成長に向け経営の舵取りを行ってまいります。

また、日本では、2011年の東日本大震災の影響で未だ電力供給に不安が及ぶなど、産業界にとっても決して楽観できない状況が続いております。震災復興は少しずつ進んでいますが、多くの被災者の皆さまやご家族がまだまだ厳しい環境におられる中、ヤンマーグループといたしましても継続的な支援を行ってまいりたいと思います。

さて、当社においては、未来を見据えた新しいミッションステートメントに基づき具体的な取り組みを進めております。その一つが、本年から始動している「プレミアムブランドプロジェクト」です。これは、当社のミッションと密接な関係を持つ、お客様へのSolutioneeringに貢献するプロジェクトです。これまで以上に、全世界のお客様からのゆるぎない信頼をいただくために、商品・アフターセールス・コミュニケーションを通じてブランドのプレミアム化活動を開始し、当社の新しい企業イメージを構築していきたいと思います。

なお、「プレミアムブランド」とは、決して、高級ブランドを目指すということではありません。顧客満足、という言葉がありますが、私たちは「満足」というレベルではなく、お客様に「感動」を提供する存在になっていこう、お客様の期待を超えた喜びや驚きを提供していこう、そういう意味がこめられています。この活動は、ミッションステートメントの実現に向けた企業活動を社員一人ひとりが地道に実践することで成り立ちます。「ヤンマーにしかできない最高の価値」をお客様に提供するこ

とができるように、またお客様の満足感が醸成されることを最優先において進めていくものです。

一方、当社の社員一人ひとりには、この活動を通じてヤンマーという会社に誇りを持ち、お客様の課題解決に役立つ様々な提案ができるようになって欲しいと願っています。

これらのヤンマーの新しい活動を全世界のグループ社員が正しく理解し、お客様への課題解決力を身につけるため、創業者山岡孫吉翁生誕地である滋賀県長浜市に、グローバル研修センターを設立いたしました。お客様への貢献を目指し、技術的な研修はもとより、経営理念やミッションなどの教育プログラムを実施しています。また、研修センターのすぐそばに、当社グループの100年間の歴史と未来への取り組みを体感いただく施設として、「ヤンマーミュージアム」をオープンいたしました。エネルギーの有効活用と地球環境との調和を追求し、創業以来当社の根幹を成す商品として基幹産業の発展に貢献してきたディーゼルエンジンの歴史や、それを搭載した多彩な機械を体験型で展示することで、来館者の皆さまに「感動」と「元気」を感じていただきたいと考えております。是非ご来場いただければ幸いです。

なお、これらミュージアム、研修センターともに、省エネ性に優れた自社の機器やシステムを採用しております。周辺地域の方々との共生や環境保全への配慮を意識し、エコロジーと経済性の両立を追求した施設運営を目指していく次第です。

さて、今年度の報告書では、前半部分におきまして、冒頭に述べました成長への取り組みの中から、当社ブランドのプレミアム化活動の概要と全世界のグループ社員で取り組んでいるミッションステートメントの実践に関わる活動、および課題解決へのSolutioneering事例を紹介しております。さらに報告書の後半では、日頃より持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいる環境保全や社会貢献活動についても、一部を紹介しておりますので、皆様から忌憚のないご意見を聞かせていただければ幸いです。

今後とも末永く、ご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



代表取締役社長

山内健人



# PREMIUM BRAND PROJECT



プレミアムブランドプロジェクト

## 次の100年を見すえて、 お客様や社会への貢献を追求していきます。

100年にわたるヤンマーの発展の歴史を踏まえ、次の100年を見すえたヤンマーの新たな成長戦略。

それが「プレミアムブランドプロジェクト」です。

グローバル企業として成長を続ける今、世界各国のお客様や社会に貢献していくための取り組みが始まっています。

### 「プレミアムブランドプロジェクト」の趣旨

約100年前、ヤンマーの創業者である山岡孫吉は、世界で初めて小形ディーゼルエンジンの開発に成功しました。以来、先進技術を追求していく中で、農業をはじめとしてマリン・海洋、エネルギーシステム、建設機械、産業用エンジンと、事業の領域を大きく広げています。

近年、食の品質・安全性へのこだわり、環境問題への関心、代替エネルギーへの期待、そして何よりも自然と調和したより豊かなライフスタイルを求める志向が高まる中、食料生産とエネルギー変換の分野で世界的に評価されてきたヤンマーの使命も、かつてないほど重要になっています。

食とエネルギーを支えるヤンマーの事業は、大地（農業）、都市（エネルギー・建設機械）、海（マリニンダストリー）の3つの領域で展開されます。従来、ともすれば社会を側面から支える役割と捉えられてきたこれらのカテゴリーを、世界最先端のエンジニアリング力と大胆な企画・提案により進化させたい。「Solutioneering」を掲げる企業として、お客様の想像を超えるソリューションで、お客様の生涯価値を高め、農業や漁業をはじめとする産業そのものの価値までも高めていきたい。これがプレミアムブランドプロジェクトの目指すところです。

## 新たなブランド・アイデンティティの発信

プレミアムブランドプロジェクトでは、製品づくりから販売、店舗、サービスなど、社会とのあらゆる接点をブランドコミュニケーションの機会ととらえ、新たな時代にふさわしいヤンマー像を発信するとともに、ミッションステートメントの実現に向けた活動を正確かつ効率的に伝えることでブランド価値を高めていきます。このプロジェクトの始動にともない、当社では新たなブランド・アイデンティティとして「FLYING Y」を考案しました。YANMARの「Y」をシンボライズするとともに、ヤンマーの由来であり、日本人にとって豊作の象徴でもあるトンボ（オニヤンマ）の「羽」をモチーフにデザイン。これによって、次の100年へと飛躍するブランドの意志を表現しています。また、鋭角的なフォルムは、未来を切り拓く先進性と精緻を極める世界最先端の技術力を表す一方、コーポレートカラーでもある赤は、「開拓者精神」「挑戦」「情熱」「太陽」「豊かさ」を表しています。



**FLYING Y**

## プロジェクトに協力する3名のクリエイター

当社の新たなブランドの構築に向けて、クリエイティブディレクターの佐藤可士和氏が全体を統括するとともに、ヤンマーホールディングス株式会社の取締役役に就任した奥山清行氏が全製品のデザインを手がけ、さらに滝沢直己氏が農業用およびマリン

用のアパレルデザインを担当しました。今後、これらの統一したコミュニケーションを通じて、世界に向けてヤンマーブランドを力強く発信し、お客様の課題解決につながる活動を加速するとともに、より豊かな暮らしの実現を目指していきます。

### 佐藤 可士和

KASHIWA SATO

クリエイティブディレクター /  
SAMURAI 代表



1965年、東京生まれ。博報堂を経て「SAMURAI」設立。国立新美術館のシンボルマークデザインとサイン計画、ユニクロや楽天グループのグローバルブランド戦略のクリエイティブディレクション、セブン-イレブンジャパン、「カップヌードルミュージアム」のトータルプロデュースなど、ブランドアーキテクトとして、対象物の本質を見抜いて研ぎすます表現で多方面より高い評価を得ている。

### 奥山 清行

KIYOYUKI OKUYAMA

工業デザイナー /  
KEN OKUYAMA DESIGN 代表



1959年、山形市生まれ。ゼネラルモーターズ社（米）チーフデザイナー、ポルシェ社（独）シニアデザイナー、ピニンファリーナ社（伊）デザインディレクターを歴任。フェラーリエントォなどの自動車や鉄道、都市デザインから、テーブルウェア、眼鏡等数多くのデザインを手がける。2007年よりKEN OKUYAMA DESIGN 代表。2013年4月、ヤンマーホールディングス取締役役に就任。

### 滝沢 直己

NAOKI TAKIZAWA

ファッションデザイナー /  
NAOKI TAKIZAWA DESIGN 代表



1960年、東京生まれ。ISSEY MIYAKEのクリエイティブディレクターを経て、2006年に独立。ISSEY MIYAKE時代には佐藤可士和氏などファッションの枠組みを超えたクリエイターとの創作活動を通じてクリエイションの幅を広げた。独立後は Helmut Lang メンズライン、ユニクロなど、さまざまなアパレルブランドのデザインディレクションやブランドリニューアルに携わっている。一方で、企業や美術館やレストランなどのユニフォームデザインも多数手がけている。





2013年7月25日、ヤンマーの本社にてプレミアムブランドプロジェクトの発表会が行われ、製品等のデザイン全般を手掛ける奥山清行氏が、トラクターおよびプレジャーボートの新コンセプトデザインを発表しました。今後、新コンセプトの画期的なデザインを活かしつつ、お客様や現場の声を取り入れることで、世界の人々の夢や期待に応える製品づくりを進めていきます。

## 新コンセプト製品

### ■ クルーザー Y-CONCEPT X39 EXPRESS CRUISER

ヤンマーが新たに開発したプレジャーボートが「Y-CONCEPT X39 EXPRESS CRUISER」です。新型の6気筒ディーゼルエンジン2基を搭載。圧倒的に軽量でありながら、100馬力/Lというエンジンで世界最高レベルの高出力を実現。最高速43ノットで疾走する革新的なクルーザーです。パワーボートのようなスポーティーなデザインでありながら、2つのベッドルームを持ち2カップルがゆったりと滞在できる内装空間。また、船体のパールホワイトとメタリックレッドのアクセントに象徴される、洗練されたデザインが特徴です。さらに、プレミアムブランドにふさわしく、開放感あふれる開閉式ハードトップなど革新的な機構をそなえています。

### ■ トラクター Y-CONCEPT YT01 ADVANCED TRACTOR

日本の農業の新しい姿を提案するために開発されたコンセプトトラクターが、「Y-CONCEPT YT01 ADVANCED TRACTOR」です。後方に細く絞られたボンネットに、大きく丸みをおびたキャビンという軽快なスタイリングで、外装には高級感あふれるメタリックレッドを使用。業界トップクラスの視界性と快適性を実現し、作業機としての十分な機能性と、作業する人の心を満たすデザイン性を兼ね備えています。

さらに特徴的な機能が、2台を1人でコントロールできる、新搭載の無人追従システムです。これによって耕うんと作付けを同時に行うなど、複数の農作業を効率よく行うことが可能です。農業へのさらなる貢献を果たすため、このシステムの実用化を目指していきます。





## 新コンセプトウェア

### ■ マリンウェア

#### Y-CONCEPT MW01 PREMIUM MARINE WEAR

ヤンマーが提案する新たなマリンウェアは、ファッション性とともに、最新の機能を備えています。時に苛酷な船上での環境に適応しつつ、最高の着心地を実現するため、素材には徹底的にこだわりました。肌触りがよく伸縮性もある軽い素材を選び、後加工や縫製技術によって完全な防水性を追求し、防風性や保温性にも優れるような工夫を施しています。また、船上や狭い船内での動きにフィットするようなカッティング技術（立体裁断）を駆使しています。

ボディのチタニウムホワイトは地平線に輝く光の色、茜色のラインは朝、夕に空を染める太陽の色をイメージしました。ジッパーやロゴマークに茜色を使用することによって、海に浮かぶクルーザーのスピード感を表現しました。



### ■ 農業ウェア

#### Y-CONCEPT AW01 PREMIUM AGRICULTURAL WEAR

農業をより魅力ある産業にしていきたい。そのため、農業ウェアのデザインに際して、農作業の現場からの発想を大切にしました。作業に費やされるエネルギーを少しでも軽減できる軽量素材を使用するとともに、動作のストレスを抑えるためのカッティングを研究。何よりも毎日の仕事が楽しくなるように、仕事のための単なる「作業着」ではなく、カッコいい「服」を目指しました。

なかでも、仕事のモチベーションを高めるデザインとして、ウェアの色を重視。大地と毎日向かい合って仕事をする人々の姿、またヤンマーの次世代農耕機のデザインから浮かんできたのはチタニウムブラウンでした。その色をベースに、レディースには鮮やかなピンク、メンズには黒をアクセントカラーとしました。



## 農水産業の魅力を発信するコミュニケーション戦略

人と人とを結びつけることで、農業や漁業への貢献を追求するヤンマーの新たな試み。それが「プレミアムマルシェ」です。食の品質や安全性に関心を抱く人が増えている昨今、生産者と消費者をダイレクトにつなぐことで、都会の人々の農業や漁業への関心を高め、産業としての価値をさらに高めていくことを目指しています。

その第一歩として、食をテーマにしたテレビ番組を制作・放映するとともに、東京および大阪で青空市場を開催しました。また、Webサイト (<http://www.yanmar.co.jp/premium-marche>) を通じて、各地の生産者が手がけているこだわりの農作物などに関する情報を発信しています。

2013年8月には東京の恵比寿ガーデンプレイスで、10月には大阪のグランフロント大阪において、日本各地の生産者が持ち寄った自慢の食材を消費者に直接販売する青空市場を開催。イタリアンシェフによるステージクッキングイベントをはじめ、旬野菜の移動農園の設置、奥山清行氏デザインのコンセプトトラクターの展示などを行いました。新しい農業、漁業のあり方を見せるヤンマーは、これからもプレミアムマルシェを通じて、生産者と消費者のかけはしとなる活動を通じて、農水産業の価値向上に努めていきます。



# ミッション研修会 Japan

2012年1月、ヤンマーグループは  
新しいミッションステートメントと行動指針を策定しました。  
それらをグループ社員が正しく理解するために、  
2012年7月から2013年3月の間に国内94カ所、海外15カ所で  
ミッション研修会を開催しました。  
社員一人ひとりがミッションおよび行動指針への理解を深め、  
自ら率先して行動できるように、今後も継続して  
研修会を開催する予定です。

## ■ 2012年度 日本でのミッション研修会実施状況



ヤンマー農機販売(株)(島根)



ヤンマー(株)  
農機事業本部(岡山)



ヤンマーエンジニアリング(株)九州(福岡)



ヤンマー農機販売(株)(鹿児島)



ヤンマー農機販売(株)(大分)



ヤンマーエネルギーシステム(株)本社(大阪)



ヤンマー農機販売(株)(岩手)



ヤンマーエネルギーシステム(株)(宮城)



ヤンマー農機販売(株)(福島)



ニューデルタ工業(株)(静岡)



ヤンマー農機販売(株)関東(埼玉)



ヤンマー(株)本社(大阪)



ヤンマー(株)農機事業本部  
(滋賀)



ヤンマー(株)特機エンジン事業本部  
(兵庫)

■ 研修会実施会社  
(2012年7月～2013年3月)

ヤンマー株式会社

- 小形エンジン事業本部
- 特機エンジン事業本部
- マリン事業部
- 農機事業本部
- 中央研究所
- 東京支社

ヤンマー農機販売株式会社

ヤンマー農機製造株式会社

株式会社神崎高級工機製作所

ヤンマーエネルギーシステム株式会社

ヤンマーエネルギーシステム製造株式会社

ヤンマー建機株式会社

ヤンマー船用システム株式会社

ヤンマー造船株式会社

ヤンマーキャステクノ株式会社

ヤンマーエンジニアリング株式会社

ホクトヤンマー株式会社

ニューデルタ工業株式会社

共立イリゲート株式会社

ヤンマーグリーンシステム株式会社

ヤンマーヘリ&アグリ株式会社

ヤンマー物流サービス株式会社

ヤンマー情報システムサービス株式会社

株式会社ヤンマービジネスサービス

ヤンマークレジットサービス株式会社

コーリンエンジニアリング株式会社



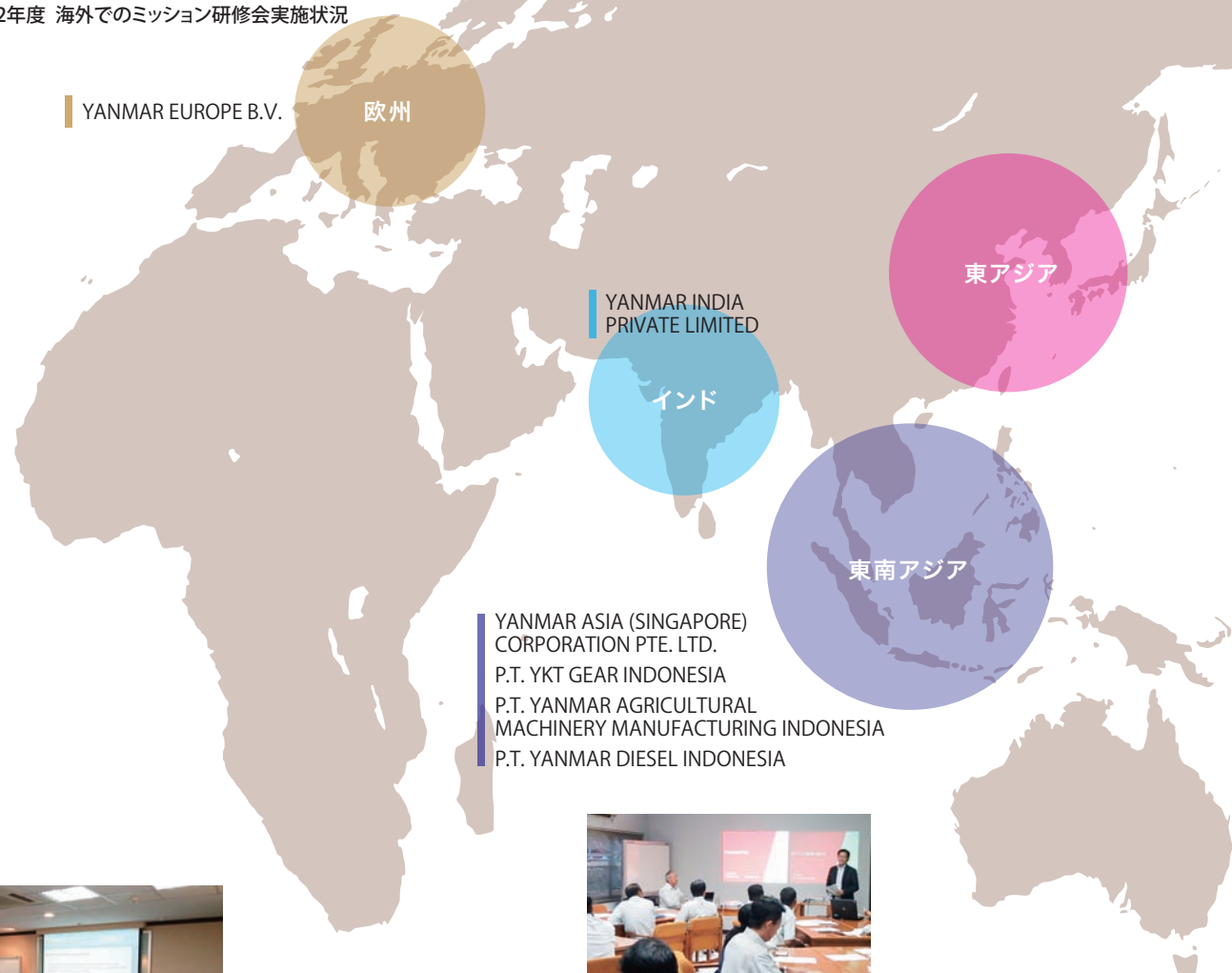
# ミッション研修会 Overseas

海外では、全ての教材を現地で使用する言語に翻訳し、  
全社員を対象としたミッション研修会を実施しました。  
研修では、日本における研修内容に加え、  
ヤンマーの100年の歴史について学ぶ機会を設けました。  
ヤンマーグループ全体でミッションステートメントや  
行動指針を共有し、グループの一体感の醸成を目指します。



YANMAR AGRICULTURAL  
MACHINERY (KOREA) CO., LTD.

## ■ 2012年度 海外でのミッション研修会実施状況



YANMAR ASIA (SINGAPORE)  
CORPORATION PTE. LTD.



P.T. YKT GEAR INDONESIA



P.T. YANMAR AGRICULTURAL  
MACHINERY MANUFACTURING  
INDONESIA



P.T. YANMAR DIESEL INDONESIA





洋馬農機(中国)有限公司



洋馬発動機(上海)有限公司

YANMAR AGRICULTURAL  
MACHINERY (KOREA) CO., LTD.  
洋馬発動機(山東)有限公司  
洋馬発動機(上海)有限公司  
洋馬農機(中国)有限公司



北米

YANMAR AMERICA CORP.  
TUFF TORQ CORPORATION



YANMAR AMERICA CORP.



TUFF TORQ CORPORATION

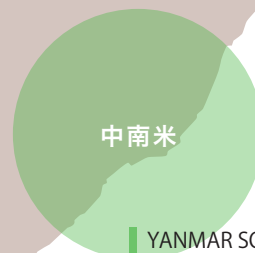
YANMAR S.P. CO., LTD.  
YANMAR CAPITAL (THAILAND) CO., LTD.  
YANMAR KOTA KINABALU R&D CENTER SDN. BHD.



YANMAR S.P. CO., LTD.



YANMAR CAPITAL (THAILAND) CO., LTD.



中南米

YANMAR SOUTH AMERICA  
INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.

## 研修会事務局の声

ヤンマーホールディングス(株)  
企画・戦略ユニット

宮島 武志

ヤンマーが事業活動を行う上で、社会的な存在意義を示しているミッションステートメントとそれを実現するための行動指針は、欠かすことのできない存在であり、当社グループで働く全ての社員が理解する必要があります。

そのために 2012 年度は、日本だけではなく、海外で働く社員が理解できるように、ミッションステートメントや行動指針を現地語に翻訳し、各地で研修会を実施しました。全ての社員を対象とした研修は、かつてない規

模となりました。

社員一人ひとりが担当業務に自信と誇りを持ち、日々の行動力を高め、ヤンマーとして総合力を発揮するためには、継続的な浸透活動が不可欠です。2013 年度は研修内容をさらに充実させ、社員の心にミッションステートメントを刻み込み、お客様も気づいていない課題を発見することで、お客様とともに解決していきたいと考えています。



# 100年の歴史と 未来への取り組みを伝える ヤンマーミュージアム



## 特集1



2013年3月21日、滋賀県長浜市内に「ヤンマーミュージアム」がオープンしました。当館は創業100周年事業の一環として設立され、創業者の想いを現代に伝えるとともに、ディーゼルエンジンをはじめとして自然や科学について、楽しみながら学べる体験型のミュージアムです。



**YANMAR**  
MUSEUM

ミュージアムロゴの  
3本の線は、  
海洋・大地・都市を  
表しています。

## ものづくりの歴史や 未来に向けた 取り組みを紹介

ヤンマーミュージアムは、エンターテインメントと学習が融合した体験型のミュージアムです。創業100周年事業の一環として、ヤンマーの創業者である山岡孫吉の生誕地、長浜市に設立しました。

構想に際しては、コーポレートブランドの発信拠点として、世界にアピールできるデザインを追求しました。延べ床面積約3,000㎡の館内では、当社の事業領域である「海洋」「大地」「都市」における、「食」と「エネルギー」に関するものづくりの歴史や未来に向けた取り組みを紹介しています。

当館の運営にあたっては、当社の社員に加えて定年退職者もボランティアとして参加。ヤンマーの理念や取り組みを来館者にわかりやすく伝えるように努めています。おかげさまでオープン以来、6万人（2013年8月現在）の来館者を数え、好評を博しています。





#### ■ヤンマーミュージアムの概要

所在地：滋賀県長浜市三和町6-50  
(JR長浜駅から徒歩で約10分)

電話：0749-62-8887

開館時間：10:00～18:00(入館受付は17:00まで)

休館日：毎週月曜日  
(月曜日が祝日や振替休日の場合は翌日)  
年末年始

## 長浜の景観と自然環境に 配慮した設計

建物の設計においては、自然景観に恵まれ、数々の歴史資産を有する長浜市への配慮を重視しました。中でも、美しい街並みを象徴する「舟板塀」や「黒壁」との調和を図り、これらをモチーフとした外装デザインとしました。また、建物の周囲には、「水のまち」ならではの「水盤」をめぐらせています。

建物全体を環境配慮型の設計にした点も大きな特徴です。屋上庭園には、緑化を施すことで高断熱化による省エネ

ギーを図るとともに、ヒートアイランド現象を緩和する仕組みになっています。また、ビオトープを設置したことで、自然の仕組みや生態系を学ぶことができます。このほか、ガスヒートポンプエアコンをはじめ、マイクロコージェネシステム、太陽光発電システム、LED照明といった当社の省エネ機器を採用することで、エコロジーと経済性の両立を目指した設計となっています。

## ヤンマーミュージアムの 開館にあたって



ヤンマーミュージアム館長  
小林 文博

長浜市様をはじめ、多くの方々のご協力とご期待の中、船出することができました。オープン後、約5カ月で6万人の方々にご来館いただき、順調な滑り出しです。

来館された方にとりわけ好評なのが、ショベルやブレッジャーボートの操作体験です。普段あまり接することのない機械に、触れるだけではなく動かせる点が好評を博しています。

また、数多くのお子様トラクタなどのシートに座ってうれしそうにレバーを操作している姿を見ると、将来、この中から開発やものづくりに進む子達が現れてくれるだろうと確信しています。

当館の試みは緒についたばかりですが、情報発信と地域貢献、そして学習に対する試みの場として成長させていきたいと願っています。







## 自然や科学について、 楽しみながら学べる展示エリア

館内の展示エリアでは、当社が歩んできた歴史を紹介するとともに、自然や科学の不思議を体感できる内容としました。また、食料生産の取り組みやエネルギー変換の仕組みなどを学べるようになっていきます。

まずエントランスには、世界初の小形ディーゼルエンジンの開発の原点となったドイツ・MAN社のディーゼルエンジンを展示しているほか、創業者のものづくりの精神を今に伝える山岡孫吉記念室を設置しています。展示エリアはエンジンシアターをはじめ、農業ゾーン、まちづくりゾーン、海洋ゾーン、エネルギーゾーンなどに分かれていて、それぞれの

現場で活躍する実際の製品が展示されています。また、建設機械やボートのシミュレーターでは、掘削作業やボートの操船を体感でき、エネルギーコーナーではゲーム感覚で最新の省エネシステムについて学ぶことができます。

このほかに、農作物を用いた料理教室などを開催できる「ワークショップルーム」や、ピオトープや足湯などを備えた屋外「ヤンマーテラス」、オリジナルグッズなどの販売やスイーツなどを味わえる「ミュージアムカフェ・ショップ」、さらに最大160名まで収容可能な多目的「研修室」などを備えています。

## 農業の楽しさを学べる 「体験農園」をオープン

ヤンマーミュージアムのワークショップの一環として、JR長浜駅の一駅隣「JR田村」駅前に、体験農園を開設しました。ここでは、米や野菜の栽培、収穫を体験できるほか、収穫した作物を用いた調理もできます。

オープンしてまもない5月には、「親子田植え体験」を実施しました。今後、ヤンマーでは体験農園を拠点に、地域の農家の方々をはじめ、隣接する長浜バイオ大学との連携を通じて、農業の振興に向けた活動に努めていきます。





## 来館者の皆様に「感動」と「元気」をお届けする展示の数々



山岡孫吉記念室



エンジンシアター



農業ゾーン



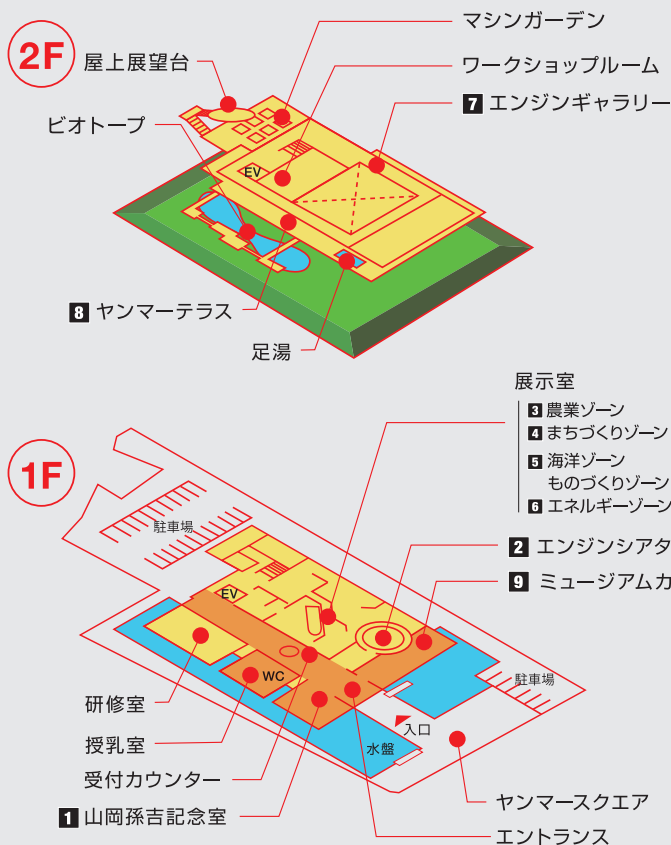
まちづくりゾーン



海洋ゾーン



エネルギーゾーン



エンジンギャラリー



ヤンマーテラス



ミュージアムカフェ・ショップ

### ■ ワークショップ ■

#### 地元産の米や野菜などを利用した料理教室

地域社会との結びつきを深めるとともに、農業に対する関心を広めるためのワークショップ。地元産の米や野菜などを利用して、さまざまな料理の実習を行っています。



#### ピオトープでの生き物の観察

2階の「ヤンマーテラス」に設置したピオトープに生息する昆虫や魚などの観察を通じて、自然にふれあいながら、生態系について学ぶことができます。すでにメダカの放流などのワークショップを実施しました。



#### 蜜蝋（みつろう）キャンドルをつくろう！


ミツバチの巣を加熱・圧搾して採取した蜜蝋を使ってキャンドルを作ります。ヤンマーが支援している梅田ミツバチプロジェクトの活動や生態系におけるミツバチの役割についても紹介しています。



#### エネルギー体験

エネルギーワークショップとして、モーターや食塩水電池を作って、磁石や電流のまわりに生じる磁界について学習します。





# 製品一台一台を見守ることで、 高品質なサービス提供を可能にする 「スマートアシスト」

## 特集2



ヤンマーは、ICT（情報通信技術）の時代に対応した、新しいマシンtoマシン（機器間通信）のサービス「スマートアシスト」を、市場に先駆けて順次展開しています。

先進の通信インフラを活用して、製品一台ごとの稼働状況を的確に把握することで、万一のトラブル発生時の迅速な対応や、故障の未然防止を図り、「お客様の手を止めないサービス」の提供に努めていきます。

# SMARTASSIST

## 開発の背景と狙い

ヤンマーは、世界各国で活躍している製品一台一台を常にベストな状態にキープすることを目的に、ICT（情報通信技術）を駆使した次世代のサービスシステム「スマートアシスト」を開発しました。

従来から、農業機械や建設機械、ボートなどの点検整備サービスは、ヤンマーのサービスネットワークを通じて行っています。点検整備が必要にもかかわらず実施していない機械は、作業中に突発的な故障を起こすことがあります。お客様は修理が完了するまで作業を中断することを余儀なくされていました。

こうしたマシンダウンを未然に防止するため、これまで定期的に点検整備をお勧めしてきましたが、点検整備が必要となる機械の選定やお客様への説明が十分に行われていませんでした。そこで、使用状況によって大きく異なる機械のコンディションを1台ごとに把握し、適切な点検整備を行うことができる「スマートアシ





## 農機事業における サービス提供の状況と成果

スト」を開発しました。数値に基づいた精度の高いサービスで、マシンダウンの回避はもちろん、製品のロングライフ化とライフサイクルコストの低減の両立を目指します。



2013年1月より大型の農業機械を対象としたサービスを国内で開始しました。機械の稼働状況や状態を把握し、突発的な故障への迅速な対応と「お客様の手を止めない」ダントツサービスを目指しています。そのために、製品カルテによる整備の提案を積極的に展開するとともに、「スマートアシスト」に関するお客様向けのWebサイトを開設し、機械の稼働状況に関する情報をお客様と共有できる仕組みを構築しました。お客様Webサイトには、万一の盗難など無断で機械を稼働された時、携帯電話にメールでお知らせする機能も備えて

います。また、7月からは農業会計ソフトのトップメーカー「ソリマチ(株)」と提携し、栽培管理システム「フェースファーム」とのデータ連携サービスを開始しました。

スマートアシストをご契約していただいたお客様からは、「機械の不調を感じて、お店に連絡しようと思っていた矢先、ヤンマーのサービススタッフから連絡が入り、必要な部品の交換と修理を迅速に行ってくれた。ベストなタイミングでの対応をしてもらえて、機械が止まることへの不安を払拭できて心強い」といった好意的なコメントをいただいております。

### 担当者の声

ヤンマー(株) 農機事業本部  
スマートアシストリモート推進プロジェクト専任 佐藤 祐二

農機事業におけるスマートアシストの開発と現場での活用の推進を担当しています。サービスの現場で培った業務経験を活かして、お客様のお役に立つ情報やコンテンツを開発していくことが私の使命です。今後、スマートアシストを通じて、サービスの現場で活躍するヤンマーの営業・サービススタッフをサポートしつつ、お客様に対してスピーディーで付加価値の高いサービスを提供できるように、現場と一体となってシステムの開発に取り組んでまいります。







## 建機事業における サービス提供の状況と成果

建機事業では2013年5月より、国内の小型油圧ショベルを対象に「スマートアシスト」のサービスを開始しました。まずは3トンクラスの機械でオプションでの提供です。今後、「スマートアシスト」のオプションを順次設定しつつ、標準の設定へと拡大していく予定です。

建機事業の最大のお客様は全国または地域に展開するレンタル会社様です。現状では、同社の技術スタッフが定期的にメンテナンスを行っています。長期レンタル中の機械の故障対応や所有機械の稼働実態の把握、さらにベストな状

態での貸出しなどが課題となっています。そこで「スマートアシスト」を活用することで、稼働状況の管理機能をWeb画面からインターネットを経由して提供し、建機レンタル会社様のニーズに的確に対応してまいります。

建機レンタル会社様の技術責任者からは、「メンテナンスの必要な時期や項目が把握でき、レンタル中の機械でも稼働状況を監視しながら点検整備が計画的に実施できる。万一発生するレンタル期間中の故障にも不具合が発生した現場を正しく把握できるので、迅速な対応がで

きる」として、「スマートアシスト」を活用したレンタルサービスの展開に期待されています。



### 担当者の声

ヤンマー建機(株) 営業本部  
カスタマーサポート部 サービス情報課 専任課長

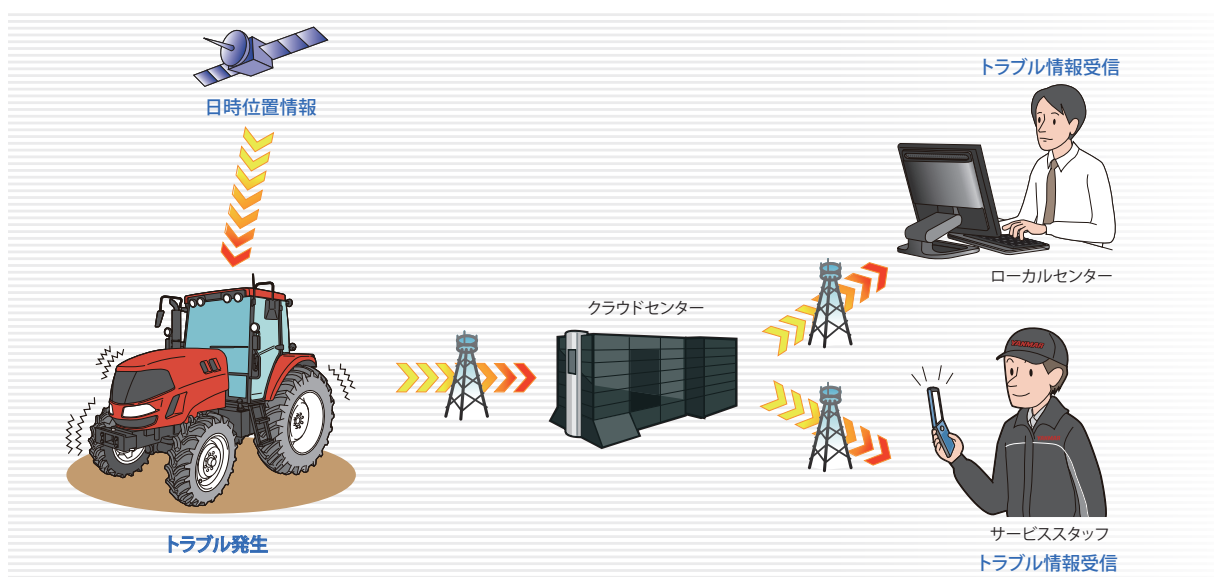
山田 信明

建機事業において、「スマートアシスト」の活用と新たなビジネスモデルの展開に努めています。ヤンマーの建機をご愛顧いただいているお客様一人ひとりのご要望や課題に向き合っていくことが我々の役割です。「スマートアシスト」を活用

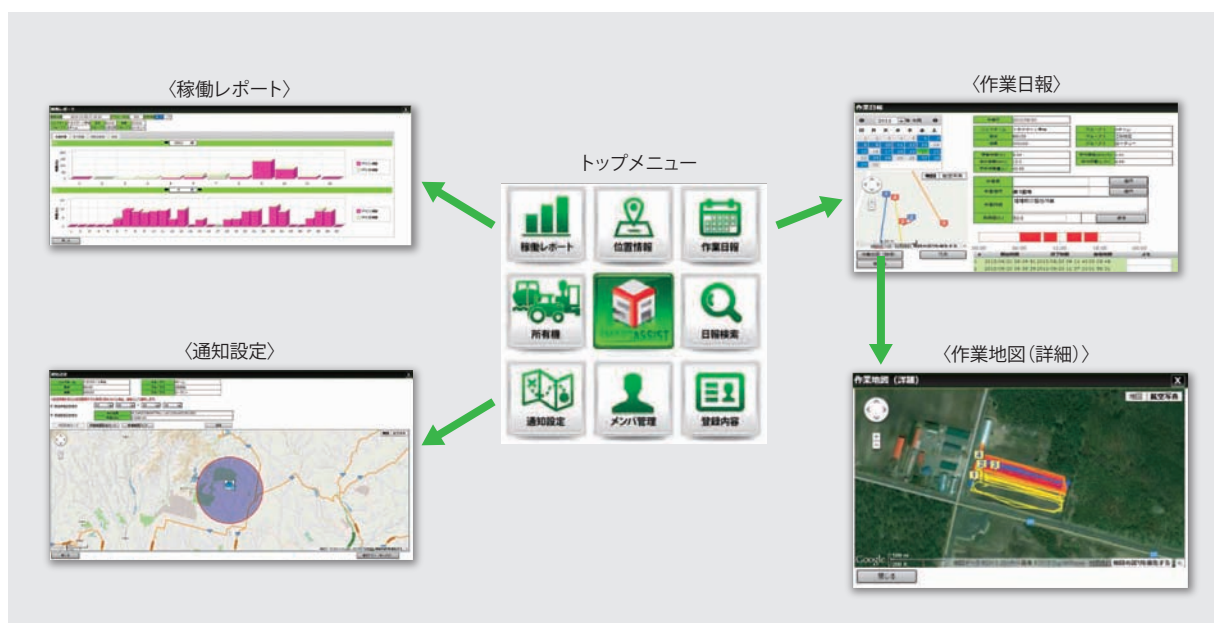
することで、従来、実現困難であった課題に対して、ソリューションの幅が大きく広がっていくと考えています。今後、お客様の課題をともに解決していくことで、揺るぎない信頼関係を築くことを目指してまいります。



## ■ スマートアシストのシステム概要 ■



## ■ お客様向 Web サイト機能概要 ■



## 「スマートアシスト」活用の進化


現在、ヤンマーの製品は世界の各地域で稼働しています。こうした状況において、「スマートアシスト」の開発ターゲットは、ヤンマーの全ての事業であり、機械が稼働する全ての地域を想定しています。システムの基盤である「マシンtoマシン」(機器間通信)の技術は、20年来にわたる

エネルギーシステム事業の取り組みを通じて培ってきました。そして、携帯電話通信網のネットワークインフラの進展により、移動体通信へと発展してきました。

さらに今、「スマートアシスト」を活用したサービスは、マリン事業での活用や海外各地域への展開へと取り組みを拡大

中です。サービスの現場で活躍するスタッフとともに、世界の各地域で稼働するヤンマーの製品一台一台の使用状況を見守っていくことで、お客様とのより密接な関係を築いてまいります。





# グローバルに活躍できる 人材の育成を目指して

## 特集3



2013年3月、滋賀県長浜市に「グローバル研修センター」が竣工しました。この施設は、全世界のヤンマーグループ社員がグループの経営理念やミッションなどを、一貫的な教育プログラムを通じて学ぶ場として設立したものです。今後、座学および技術研修を通じて全社員が体系的かつ階層別に学ぶ機会を提供していきます。

「品質はメーカーの良心である」というヤンマー株式会社名誉会長 故・山岡淳男の言葉が、グローバル研修センターの玄関に刻まれています。



### 世界で展開する 事業の成長に向けた、 全グループ社員の育成

グローバル研修センターは、全世界のヤンマーグループ社員のための教育研修機関として設立しました。ここでの研修を通じて、ヤンマーの企業文化や考え方を共有し、グローバルに展開する各事業をさらに成長させることを目指しています。また、次世代の経営を担う人材やグローバル人材の育成、さらに技術・品質に関する研修などの実施を通じて、グループ社員の知識・スキルを向上させることを目的としています。

今後、この施設が拠点となり、何事にも積極的に挑戦する意欲を持ち、グローバルビジネスで活躍できる人材の育成に向けて、グループ全体の能力開発体制をサポートしていきます。そして、モノづくり力の強化に向けて、基礎技能の習得に加え、業務関連知識の習得などとともに、人間性を幅広く培う教育を行っていく考えです。





■ ヤンマーグローバル研修センター  
(Yanmar Human Resources Development Institute)

所在地：滋賀県長浜市平方町856

建物：鉄筋コンクリート造3階建て  
延べ床面積 約2,500㎡

設備：実習室 4室 — 総面積510㎡  
研修室 6室 — 最大収容人員 180名  
応接室 2室

## 座学を通じたミッションステートメントの浸透

2012年にヤンマーグループは、創業100周年を機にこれから進むべき事業領域や価値観、社会貢献のあり方を宣言した「新ミッションステートメント」を発表しました。今後、世界の中で成長・発展をしていくためには、世の中に存在する意義や社会的使命をグループ全社員で再確認し、心と行動を一つにして、個々人の力を

最大限に発揮していくことが求められます。そこで、全グループ社員が日々の仕事の中でミッションステートメントを実践できるように、座学を通じて浸透に努めていきます。

具体的には、お客様の問題解決に向けたカリキュラムを用意しています。

これからの100年の繁栄を見すえて、お

客様の抱える問題を想定し、それに応える取り組みを追求していきます。また、将来の経営を担う人材の育成も重要なテーマです。日本国内のみならず、世界での貢献を目指して、創業者の精神やミッションステートメントを実践できるリーダーの育成に努めていきます。

### ■ グローバル研修センターの主な役割 ■

#### 1. 次世代経営人材・グローバル人材の育成

マネジメント能力を高めるための、経営スキル・経営マインド・経営センスを柱としたキャリア開発プログラムを実施します。

#### 2. 理念・方針展開体系をグループ社員へ浸透・定着

2012年に刷新された企業理念・方針展開体系を、全世界・全グループに展開させるべく、世界各地のグループ各社従業員に教育を実施します。

#### 3. 課題解決能力の向上

お客様の問題解決に貢献し成果をあげられる人材のために、「YWK (Yanmar Way by Kaizen)」を中心とした各種課題解決能力プログラムを実施します。

#### 4. 専門能力を習得するための研修の実施

各事業で展開される商品技術の基礎研修をはじめ、開発・生産に必要な技術知識を基礎から高度なレベルまで、段階的に習得するためのプログラムを実施します。

#### 5. 現地法人における人材に対する、人材交流を通じたヤンマーの企業文化、考え方の理解・浸透

2012年に100周年を迎えて刷新された企業理念・方針展開体系を、全世界のグループ社員に理解・浸透させるべく、理念の実践例の共有や展開プログラムを実施します。



## 世界に通じる技術サービスマンを育成する技術研修

ヤンマーは、基礎技術教育を地道に継続する企業姿勢を、長年にわたって大切に守ってきました。その歴史は、農家の労働を少しでも軽減したいと願い、農業機械の普及とディーゼルエンジンの小型化に生涯を捧げた創業者、山岡孫吉が、1951年（昭和26年）から手がけた「農機講習会」というユーザーやディーラーを対象にしたエンジン教育に始まります。

従来、ヤンマー技術研修所が創業者の志を継承して、全事業分野の基礎的技術研修を担ってきました。そして今後は、グローバル研修センターが技術研修所の役割を継承します。

現地法人の各社が採用した社員に、基礎的エンジン研修を行っていきます。研修を終えた社員たちは担当地域の販売

サービス網やユーザーを対象としたエンジン研修のトレーナーとなり、基礎的なエンジン研修で培った技術を市場で展開していくことになります。社員一人ひとりがグローバルな販売サービス網づくりにおける伝道師となっていくのです。

グローバル研修センターにおける技術研修の役割は、基礎的エンジン研修だけにとどまりません。商品やサービスを世界中のお客様に利用していただくためには、優れたものづくりを追求する精神が欠かせないからです。そのため、理念教育を含めたマネジメント研修と技術研修の両輪を通じて、ヤンマーグループのグローバル人材を育成していきたいと考えています。





## ■ 第1回グローバルQCサークル・小集団活動成果発表会 ■

地区予選を勝ち抜いた10チームが成果を発表しました。

グローバル研修センターの完成に合わせて、2013年3月19日、同センターにて「第1回グローバルQCサークル・小集団活動成果発表会」を開催しました。当日は山岡社長および鈴木副社長はじめ、170名を超える国内外のヤンマーグループ社員が出席しました。

大会では、基調講演としてサンデン株式会社の牛久保雅美代表取締役会長が講演を行い、同社独自の全社的品質改善活動S T Q M (Sanden Total Quality Management) についての内容紹介などが行われました。



デミング賞を受賞されたサンデン(株)牛久保会長による基調講演



お揃いのユニフォームを着用した10チームの入場行進

また、地区予選を勝ち抜いた10チーム(国内4チーム、海外6チーム)が、2班に分かれて直近の活動について成果発表を行いました。審査の結果、最優秀賞はヤンマー小形エンジン事業本部と洋馬農機(中国)有限公司が受賞し、ヤンマー山岡社長から受賞者に表彰状などが手渡されました。

今後、この大会をGlobal Awardとして発展させ、非生産系の部門も含めて実施する予定です。



大会運営を行ったプロジェクトチームのメンバー

#### 受賞チーム

##### 最優秀賞

- 小形エンジン事業本部  
山本工場製作G製作係機械加工職場  
「MP2ライン 切粉噛み不良低減」
- 洋馬農機(中国)有限公司 生産部  
組立課 組立3係  
「田植機 苗載台ASY組立改善による品質向上」

##### 優秀賞

- YANMAR KOTA KINABALU  
R&D CENTER SDN. BHD.  
燃料研究グループ  
「YKRCにおけるYWK活動」
- YANMAR S.P. CO., LTD.  
トラクター組立部門  
「ボンネット組立工程での品質問題“ZERO”への挑戦」

##### 発表賞

- ヤンマーキャステクノ(株)  
甲賀事業部 製造部  
第三グループ造型  
「造型サイクルタイムの短縮」
- 特機エンジン事業本部  
品質保証部市場サービスG  
「N330形機関における弁バネ、バネ受け交換工事の時間短縮」
- セイレイ工業(株)  
第一製造部組立課第一組立係  
「コンバイン締付不良撲滅への挑戦」
- P.T. YKT GEAR INDONESIA 購買部  
「最高レベルの歯車生産品質を  
目指して客先クレーム“0”への挑戦」

##### 特別賞

- YANMAR AMERICA CORP.  
生産部物流部  
「運送ルートの合理化による  
物流費の削減」
- YANMAR CONSTRUCTION  
EQUIPMENT EUROPE S.A.S.  
生産技術課調達係直行率改善チーム  
「ブーム・アーム溶接/  
マシニングラインの改善」の挑戦」

(2013年3月末現在の組織名称で表記しています。)

#### 受賞者の声

小形エンジン事業本部  
生産統括部 びわ工場 機械グループ 担当

藤森 健太

私の発表では、山本工場に在籍当時、長年の懸案事項であった加工不良の問題を取り上げ、その低減に向けた取り組みについて報告しました。振り返ると、工場再編によるライン移管や、自分たちの配置転換といった課題が相次いだ中で、メンバー同士の「決して諦めない」という強い思いが、加工方法の画期的な見直しという大きな成果につながったと感じています。

また、発表会当日は他の活動発表から学ぶことが多く、とても有意義な機会となりました。今後はこの経験を活かして、最後まで諦めずにやり遂げることにこだわり、何ことにも前向きにチャレンジしていきたいと思っています。



#### 受賞者の声

洋馬農機(中国)有限公司  
生産統括部 生産部 部長

周 旭峰

今回の発表については、改善活動の実施から大会の参加に至るまで、多数のご支援をいただきました。特に、改善活動についてはYWK活動支援として、日本からの技術指導を通じて、工程内の改善やラインバランスの改善など多くの手法を学ぶことができました。

これまで何度も日本の現場で学ぶ機会を得ていて、毎回、改善レベルの高さに感心しています。私たちもできるだけ早く日本のレベルに追いつかねばなりません。洋馬農機(中国)では、機種・生産量ともに急激に増加しつつある中で、社員全員が協力しあって改善活動に努めていきます。





# Yanmar Group CSR Activities

## ヤンマーグループの CSR活動

### ステークホルダーとの 対話によりCSRを推進

ヤンマーグループでは、さまざまなステークホルダー（利害関係を有する方々）の期待に応え、

企業の社会的責任（CSR）を果たさなければならないと考えています。

そのための強い求心力を生み、明確な行動指針となるのが「ミッションステートメント」です。

これからも日本および世界のステークホルダーと真摯な対話を重ねる中で「ミッションステートメント」の実践を目指し、

いま求められている社会的責任を果たすとともに、ヤンマーグループの企業価値を高めることを通じて

持続可能な社会の創造と発展に貢献してまいります。



## ヤンマーのステークホルダーと取り組みの概要

| ステークホルダー  | 取り組みの概要   | 関連ページ                           |
|---|---|---------------------------------|
|  <b>すべてのステークホルダー</b> | <p>企業価値を継続的に向上させていくために、迅速な意思決定、明確な責任の所在など、健全で透明性の高い経営体制と内部統制システムを整備したコーポレートガバナンス体制を整えています。またホームページを通じた適時・適切な情報公開を行い、ステークホルダーとのより良い関係の構築に努めています。</p>   | <b>組織統治<br/>P28</b>             |
|  <b>お客様</b>          | <p>世界のお客様との信頼の絆を大切に、共に感動できる価値の創造を目指し、独自の品質保証やユニバーサルデザインに取り組んでいます。またお客様の声に迅速に対応する仕組みの構築やアフターサービスの向上を図っています。</p>  | <b>消費者課題<br/>P44</b>            |
|  <b>従業員</b>        | <p>個人の自主性・独創性を大切に、グローバルに活躍できる人材の育成を目指すとともに、多様性を尊重するさまざまな支援をしています。またワークライフバランスの向上に取り組むとともに、従業員の健康増進や安全衛生管理の強化に努めています。</p>  | <b>人権・労働慣行<br/>P30</b>          |
|  <b>ビジネスパートナー</b>  | <p>■ 販売店・特約店<br/>国内外に広がる販売店・特約店と経営姿勢や商品情報の共有化を図り、お客様満足度世界No.1を目指す綿密なネットワークを築いています。</p> <p>■ サプライヤー<br/>国内外のサプライヤーと相互理解を深めるため、さまざまなコミュニケーションを行っています。また世界各国の環境保全に意欲的な取引先とパートナーシップを構築し、環境に配慮した調達を行う「グリーン調達」を推進しています。</p> | <b>公正な事業慣行<br/>P42</b>          |
|  <b>地域社会</b>       | <p>地域や社会と共に歩むことを目指し、農業の活性化や教育・スポーツの支援、寄贈など、国内外で社会・地域貢献活動を行っています。</p>  | <b>コミュニティ<br/>参画・発展<br/>P46</b> |
|  <b>環境</b>         | <p>「自然との共生」をテーマに掲げ、環境指向商品の開発、生産工程における環境保全、環境コミュニケーション活動に力を入れています。</p>   | <b>環境<br/>P32</b>               |

ヤンマーグループでは、経営の透明性の向上を図るとともに、内部統制システムの整備、リスクの顕在化を未然に防止するための管理体制の強化を図っています。

## コーポレートガバナンス

ヤンマーグループは、企業価値を継続的に向上させていくために、迅速な意思決定、明確な責任の所在など、健全で透明性の高い経営体制と内部統制システムを整備したコーポレートガバナンス体制を整えています。

経営体制に関しては、グループ経営と事業執行を分離するため、2013年度より持株会社体制を導入しました。

ヤンマーホールディングス(株)の取締役会のもとには「グループ戦略会議」を設置し、グループ全体の方向性の審議・決定や経営課題の解決を行うことで、効率的

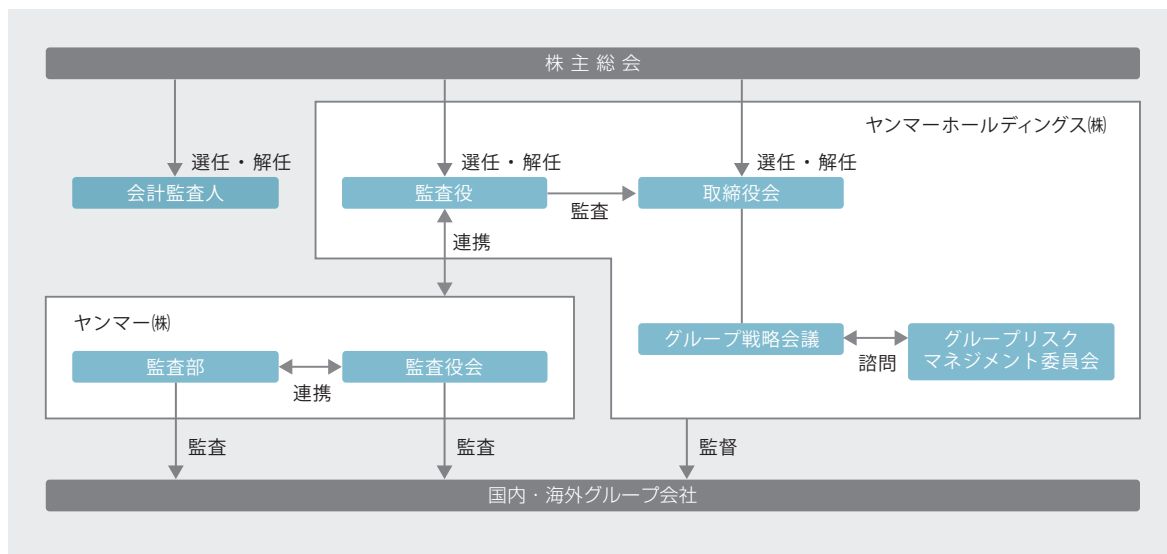
かつ効果的なグループ経営を行っています。また、「グループ戦略会議」の諮問機関として「グループリスクマネジメント委員会」を設置し、グループの事業活動に関するリスクを管理しています。

ヤンマーホールディングス(株)の監査役は、取締役の職務遂行を監査するとともに、ヤンマー(株)の監査役会・監査部と連携してグループ経営全般に関わる業務執行状況について監査しています。加えて、外部監査法人が会計監査を実施し、会計や会計に関わる内部統制の適正・適法性について第三者の立場から検証しています。

### 内部統制システム構築の基本方針 (主な内容)

- 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
- 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
- 損失の危険の管理に関する規定その他の体制
- 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- グループ全体として業務の適正を確保するための体制
- 監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制および監査役の職務補助者の独立性の確保

■ コーポレートガバナンス体制図 (2013年6月30日現在)





## リスクマネジメント推進体制

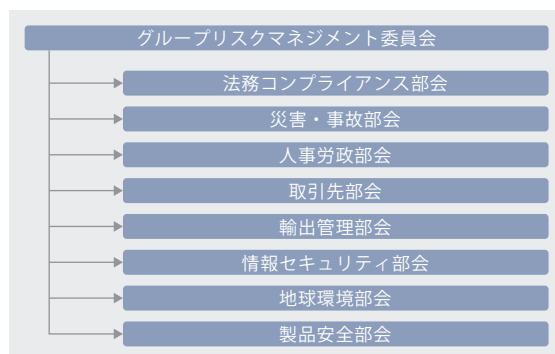
ヤンマーグループでは、事業を取り巻くさまざまなリスクに対して、的確な管理・実践が行えるようにすることを目的に、グループリスクマネジメント委員会を設置し、リスクマネジメントの取り組み全体の方針・方向性の検討、リスクマネジメント推進に関わる課題や対応策の協議を行っています。

2013年4月のヤンマーホールディングス(株)の設立に伴い、グループリスクマネジメント委員会は、「事業活動に関するリスク」を取り扱う委員会として、新体制で活動を開始しています。

グループリスクマネジメント委員会の下には、機能別のリスクを統括する8つの専門部会を設置し、

グループ傘下の各対象組織(会社)に対して、機能別リスクの未然防止、再発防止策を展開しています。

■ リスクマネジメント推進体制図(2013年6月30日現在)



### ● 「リスク事案報告データベース」の活用

ヤンマーグループ内で発生した事案について、リスクマネジメント担当者が対策の進捗をその都度記入し、その内容を経営トップ層と共有するものです。2012年度の報告件数は13件でした。

### ● 緊急対応フローの再整備

緊急時の初動体制の見直しとして、緊急対応フローを再整備しました。緊急対応が必要な災害・事故・事件が発生した場合には、緊急対応フローに基づいて危機レベルに応じて緊急対応体制を設置します。

### ● 緊急連絡網の活用

休日や夜間の緊急事態発生に備えて緊急連絡網を整備し、3カ月ごとに連絡テストを行っています。また、緊急連絡網が機能しない場合のバックアップ体制として、24時間受付可能な「ヤンマー緊急受付センター」を設置しました。

### ● 安否確認システムの活用

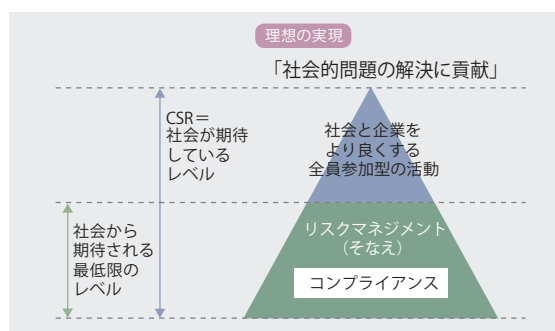
地震や風水害等の災害発生時に、社員・家族の安否や被害状況を確認するシステムです。2012年度は、震度5弱以上の地震発生に対して、12回発報し、安否確認を行いました。また、有事に備えて、毎年1月・9月にグループ全社員を対象とした一斉訓練を実施しています。

## CSR活動の推進

ヤンマーでは、CSRをグループ全体の活動として推進していくために2008年3月に「CSR部」を設置し、ヤンマーグループのCSR活動の方向性や社内外におけるコミュニケーション活動に取り組んでいます。

グループ社員に対しては、グループ社内報にCSR関連記事「みんなで考えよう!CSR」を連載し、タイムリーな話題の提供を行うことで、CSR活動の啓発を促進しています。

■ CSRとその他の活動との関わり



ヤンマーグループでは、すべての従業員の個性と多様性を尊重するとともに、安全の確保と働きやすく活気に満ちた職場環境の維持と向上に努めています。

## 人事に関する基本方針

ヤンマーでは、グローバル競争の中で生き残っていくためには商品だけでなく組織や個々の人材も強くなる必要があるという認識のもと、社会から、「さすが

ヤンマー社員」と言われる人材を創り上げたいと考えています。

- 企業ミッションと企業戦略の実現に必要な人材の確保・育成・配置を行うほか、その実現に向けた活動への動機付けを通じてグループ社員の能力と仕事への情熱を極대화する。
- ヤンマーグループの社員満足度の向上を目指し、ワークライフバランスに配慮した公平・公正な運営を行う。

## 多様な人材の採用

ヤンマーでは「国籍・性別・年齢を問わず、世界で通用するプロフェッショナルな人材の確保」を目的に、多様な人材を採用しています。2013年3月末現在、従業員数3,314名のうち外国人32名、女性423名(12.8%)、

定年後再雇用者(224名)となっています。

また障がい者の雇用機会を広げるとともに、入社後の定着率の向上にも取り組んでいます。

## 人材育成

ヤンマーでは、グローバルに拡大するビジネス世界にふさわしい人材の育成に向けて、グループ全体の能力開発をサポートしています。

製造現場ではものづくりの力を強化するために基礎技能や業務に関連する知識の習得などを奨励し、幅広い人間性を養う教育を実施しています。

### ● 柔軟かつ計画的な人材の配置

通常の人事異動のほかに本人が直接人事部門へ異動希望を申告する「異動に関する自己申告制度」、新規事業などへの社内公募制度である「ヤンマー・ドリカム(Yanmar Dreams Come True)制度」、さらに業務に

関して幅広くかつ高度の知識を有する人材を計画的に育成する能力開発プログラム「キャリア・デベロップメント・プログラム(CDP)制度」を導入し、柔軟かつ計画的な人材の配置と交流を行っています。

### ● お客様の立場で主体的に考えることができる人材の育成

お客様の問題解決に貢献して成果をあげることができる人材育成のため、「技術者(基礎)教育」「選択

型研修」「通信教育」などの能力開発の機会を提供しています。

### ● グローバルビジネスで活躍できる人材の育成

海外現地法人との人材交流をはじめ、語学研修、海外ビジネススキル研修(英文ライティング、プレゼンテーション、ネゴシエーション力など)、海外赴任前の

研修(問題解決や海外におけるリスクマネジメントなど)を通じてグローバルな分野で活躍できる人材育成に取り組んでいます。

### ● 経営を担う人材の育成

将来の企業経営を担うべき人材育成のために経営管理能力の向上を図るマネジメント研修を実施し

ています。さらに海外でのコミュニケーションやリーダーシップなどの能力開発を支援しています。



## ワークライフバランスの推進

育児介護休業等の制度や積立有給休暇制度の充実など、家庭と仕事を両立させ、すべての従業員が能力を十分に発揮し、安心して働き続けられるような職場づくりに取り組んでいます。また、結婚・出産などで退職された女性従業員のための職場復帰制度を導入しています。2012年度はヤンマー単体において、育

児休暇の利用者数が36名、短時間勤務者数が34名、産前産後休暇取得者が24名、介護休暇の利用者が5名となっています。

また、ワークライフバランスや業務効率を向上させるために、一部の研究開発・スタッフ部門で「フレックスタイム制」や「裁量労働制」を導入しています。

## 健康増進への取り組み

上級指導職研修を開催し、メンタルヘルスの概要説明、自己の気づき・周囲の気づきなどについて解説を行っています。

また産業医である近藤クリニックの近藤先生による健康講演会を年に1回本社で開催しています。

健康保険組合、人事労政部、事業本部総務部、労働組合メンバーで構成する健康管理推進委員会で、健康増進に関わる諸事項（定期健診、メタボリックシンドローム対策など）を協議しています。

## 労使関係

ヤンマーでは、ヤンマー労働組合・ヤンマー社員組合と安定した労使関係にあり、従業員の職場環境・労働条件などについて定期的に交渉・協議を行って

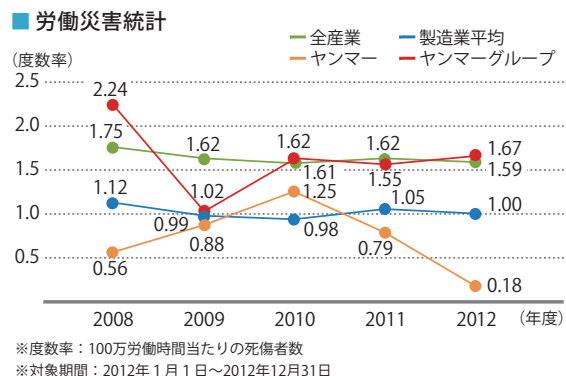
います。

また経営状況説明会や労使懇談会など、会社の経営状況について話し合う場を設けています。

## 労働安全衛生

ヤンマーグループでは生産工場ごとに労働環境が異なるため、それぞれに安全と衛生を確保する独自のマネジメントシステムを構築しています。

各工場では安全衛生委員会を設け、安全衛生パトロールの実施など安全衛生管理の強化に努めており、職場における安全衛生の徹底を図っているほか、教育研修や現場での意識の向上と災害防止などに活かしています。



### Topics

### 特機エンジン事業本部で「安全体感スクール」を開設

2012年6月、災害ゼロの実現を目指して「安全体感スクール」を開設しました。2012年7月からは尼崎工場勤務する全社員（構内協力会社を含む）約900名を対象に研修を実施しました。スクールでは、座学に加えて、機械への巻き込まれや墜落・転落などに関して、5種の設置機具を通じて疑似体験することができます。2012年度の下期からは、他事業部の社員に対しても研修を開始しました。研修を継続することで、安全意識と危険回避能力の向上に努めていきます。



ヤンマーグループでは、地球環境の保全を経営方針における最重要課題と位置づけ、環境経営の推進、環境への配慮を基本とした事業活動を進めています。

## グループ環境ビジョン2020の策定

ヤンマーグループは、地球温暖化ガス削減の国際的な目標年度である2020年度に向けて「環境ビジョン2020」を策定し、グループの環境活動の方向性を定めました。

### グループ環境ビジョン2020

ヤンマーグループは、環境に負荷を与えている製品を扱っていることを認識し、エネルギー技術の先駆者として、持続可能な社会の実現に取り組んでいきます。

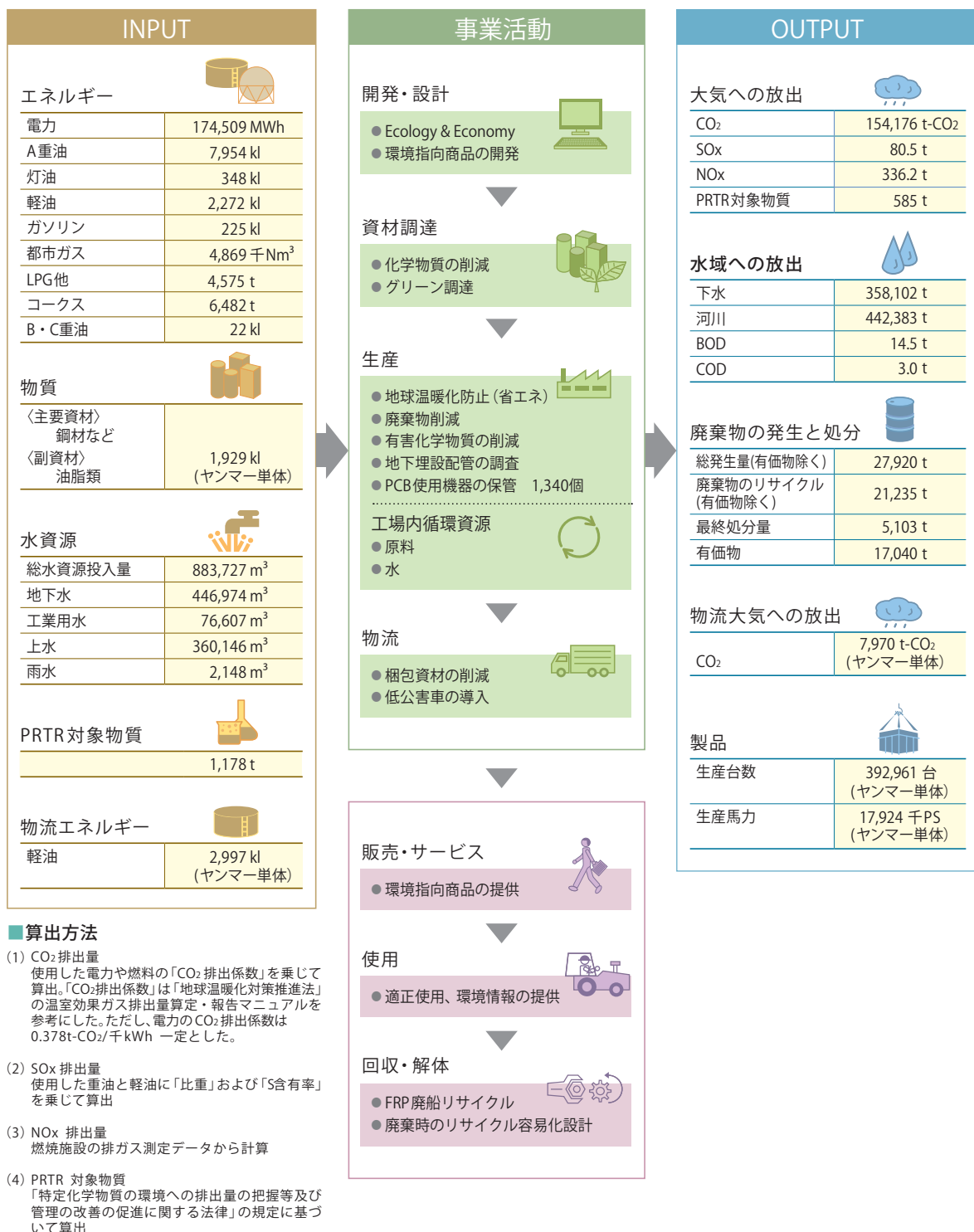




## 環境負荷の全体像

ヤンマーグループは、事業活動の中で、原材料の調達から生産、輸送、流通、使用、廃棄にいたるまでの全過程における環境負荷を定量的に計測・把握し、その削減に取り組むことが重要であると考えています。2012年度も引き続き、グループ会社の生産工

場を対象に環境負荷の計測を実施し、必要なデータの蓄積を行いました。今後は、商品のライフサイクルの各段階における環境負荷の分析・検討作業を推進していきます。



## ■ 第三次環境中期計画(2011年～2015年)の目標と達成状況

| 分類  | 項目                             | 中期目標(2015年度)  | 2012年度グループ目標   |
|---|--------------------------------|---|--|
| 体保環境<br>制全境   | グループ地球環境委員会の<br>範囲拡大           | ①国内オフィス・海外現法への活動拡大<br>②グローバル地球環境委員会の開催<br>③海外地域別環境委員会の設立                              | ・環境データ集計対象範囲の拡大継続【国内オフィス、海外現法】<br>・グループ全体で協調した環境保全活動の推進  |
| マ<br>ネ<br>境<br>境<br>シ<br>メ<br>ン<br>ト                | グループ間の<br>相互活動支援               | ①環境担当者による環境教育の相互実施  | ・事業体間の相互協力による環境保全活動の推進<br>・環境保全活動に関する情報交換の強化   |
|   |                                | ②事業体の相互協力による環境保全活動の実施   |  |
|   |                                | ③環境担当者による環境コンプライアンス監査の実施  |  |
|   | 国内オフィス・海外現法の<br>環境保全強化         | 環境データの項目拡大と環境保全活動の拡大  | ・環境経営情報システムの国内オフィス、海外現法への導入拡大<br>・グループ環境方針の展開フォロー  |
| 温<br>室<br>効<br>果<br>ガ<br>ス<br>対<br>応                | 1) 製品からの排出量削減                  |   |  |
|   | 製品ライフサイクルに<br>おける排出量の<br>把握・削減 | ①排出量の把握手法確立   | ・ライフサイクルアセスメント(LCA)の導入および展開継続<br>1)前年度の分析、他製品への展開<br>2)1990年度時点のグループ製品排出量の検討   |
|   |                                | ②エネルギー使用量および排出量の削減<br>【1990年度比15%削減】  |  |
|   | 排出量削減に向けた新手法の<br>導入            | ①カーボンニュートラル製品の開発  | ・再生可能エネルギーの導入検討<br>・作業機の電動化、ハイブリッド化の検討<br>・社会的要求、業界動向の調査<br>・グループ製品への導入可能性検討   |
|   |                                | ②カーボンフットプリントの導入検討   |  |
|   | 製品の環境関連認証取得                    | ①エンジンの排ガス規制遵守   | ・排出ガス規制の早期達成<br>・製品への認証取得検討【省エネラベル等】   |
|   |                                | ②作業機の各種省エネ・環境負荷低減に関する認証取得   |  |
|   |                                | ③環境指向商品の開発、商品化  | ・環境指向商品の売上向上   |
|   | 2) 事業活動からの排出量削減                |   |  |
|   | 国内工場からの<br>排出量削減               | エネルギー使用量・温室効果ガス排出量の削減<br>【原単位で2005年度比13%(単年 1.3%)削減、<br>総量で2005年度比15%(単年 1.5%)削減】     | ・原単位あたり2005年度比9.1%(総量 10.5%)以上削減<br>・電力見える化のグループ各社への横展開  |
| 資<br>源<br>循<br>環<br>型<br>社<br>会<br>へ<br>の<br>貢<br>献 | 物流工程からの<br>排出量削減               | ①データ集計範囲の拡大   | ・物流データの集計範囲拡大<br>・効率的な運用による国内輸送量削減の検討  |
|   |                                | ②エネルギー使用量・温室効果ガス排出量の削減<br>【原単位で2009年度比36%(単年 6%)削減、総量で2009年度比<br>6.6%(単年 1.1%)削減】     |  |
|   | 国内オフィス・<br>海外現法からの<br>排出量削減    | ①データ集計範囲の拡大   | ・データ集計拠点の拡大<br>・原単位あたり2009年度比18%(総量 12%)以上削減   |
|   |                                | ②国内オフィスのエネルギー使用量・温室効果ガス排出量の削減<br>【原単位で2009年度比36%(単年 6%)削減、<br>総量で2009年度比24%(単年 4%)削減】 |  |
|   | リサイクル資源<br>投入率の向上              | ①新規投入量の把握範囲拡大   | ・自社の現状調査<br>・資源投入量、廃棄物データの集計実施計画の立案および提示<br>・原単位あたり2005年度比28%以上削減<br>・原単位あたり2005年度比14%以上削減                                       |
|   |                                | ②上水資源投入量の削減<br>【原単位で2005年度比40%(単年 4%)削減】  |  |
|   |                                | ③紙資源使用量の削減<br>【原単位で2005年度比20%(単年 2%)削減】   |  |
|   |                                | ④2014年度までに資源投入量および再生資源利用率を把握  |  |
|   |                                | ⑤新規資源投入率の削減目標設定   |  |
|   | グリーン購入率の向上                     | 事務用品等のグリーン購入率70%以上  | ・データ集計拠点の拡大<br>・グリーン購入対象品の把握   |
|   | 廃棄物の<br>埋め立て処分量削減              | ①廃棄物総発生量の削減<br>【原単位で2005年度比20%(単年 2%)削減】  | ・原単位あたり2005年度比14%以上削減<br>・廃棄物等の削減に関する情報共有体制の構築<br>・国内オフィスの廃棄物排出量データの把握   |
|   |                                | ②埋め立て処分量が廃棄物等総発生量の5%未満<br>(ヤンマーは1%未満)   |  |
|   |                                | ③廃棄物の再資源化率が70%以上  |  |
|   | 環境調和設計の導入                      | ①製品の再利用、分別・回収の省力化を考慮した設計手法  | ・3R実施に向けた規格の制定、グループ内への周知   |
|   |                                | ②ライフサイクルアセスメント(LCA)による環境負荷分析  |  |
| 環<br>境<br>負<br>荷<br>物<br>質<br>対<br>応                | 工場における<br>環境負荷物質削減             | ①PRTR取扱量の削減【原単位で2005年度比20%(単年 2%)削減】  | ・原単位あたり2005年度比14%以上削減<br>・高濃度PCB使用製品の管理および早期処分<br>・低濃度PCB使用製品の処分方法検討   |
|   |                                | ②PCB処分完了(2016年まで)   |  |
|   | 製品中に含まれる<br>環境負荷物質情報の管理        | ①情報管理システムの構築  | ・調査システムによる化学物質調査の実施<br>・取引先様、お客様からの問い合わせ対応   |
|   |                                | ②サプライチェーンを含む情報管理体制の構築   |  |
|   | 事業活動における<br>環境負荷物質の削減推進        | ①環境負荷物質規制に対する遵法体制の構築  | ・法令、条約の規制動向把握継続およびグループ内への展開<br>・グリーン調達ガイドライン、社内規格の最新版管理<br>・自主規制4物質および各種法令による使用禁止物質の切り替え促進<br>・グリーン調達ガイドラインに基づく化学物質調査の実施、結果の取り纏め |
|   |                                | ②自主規制環境負荷物質の切り替え完了  |  |
| 生<br>物<br>多<br>様<br>性<br>対<br>応                     | 自然と共存出来る<br>事業活動               | ①大気・水質に関する自主基準の決定および維持・管理   | ・社会情勢を踏まえた自主基準の新設および見直し<br>・事業所および建物の緑地、環境施設面積の拡大<br>・清掃活動を通じた地域住民との交流促進   |
|   |                                | ②事業所および周辺地域の植樹・清掃活動実施   |  |
|   |                                | ③化石燃料に代わる新エネルギー創出   |  |
|   | 生態系保全に貢献する<br>製品・サービスの提供       | ①生態系の保全に繋がる新規事業の展開  | ・ミツバチプロジェクト等 生態系保存に貢献できる活動の継続<br>・事業活動および地域交流を活かした、新しい貢献活動の提案  |
|   |                                | ②地域交流による生物が新たに生育する環境の提供   |  |
| 社<br>会  | 周辺住民への<br>貢献活動継続               | ①近隣との共同ボランティア活動   | ・事業サイトあたり最低1件以上実施<br>・事業所の外部開放継続、親睦イベントの主催および協賛<br>・創業100周年事業を通じた地域貢献  |
|   |                                | ②お客様・近隣との親睦事業実施   |  |





目標達成



一部未達(70%以上)



未達(70%以下)

| 2012年度グループ実績   | 評価 | 2013年度グループ目標   | 関連ページ  |
|--|----|--|--------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>国内オフィス、海外現法におけるデータ集計範囲(対象拠点、項目)の増加</li> <li>各事業体、地域統括現法と協力の国際会議の開催</li> </ul>                               |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境データ集計対象範囲の拡大【国内オフィス、海外生産現法】</li> <li>グループ環境方針の展開、各事業体と協調した保全活動の実施</li> </ul>  | Web    |
| (主だった活動実績無し)   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>事業体間の相互協力による環境保全活動の推進</li> <li>環境保全活動に関する情報交換体制の強化(先進他社訪問、勉強会の実施等)</li> </ul>   | Web    |
| (環境事務局による単独実施)   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境コンプライアンス監査の共同実施</li> </ul>  | Web    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>国際会議を通じたフォローの実施</li> </ul>  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ環境方針展開済み各事業体への業務フォロー</li> <li>海外地域別環境保全担当者会議の定期開催</li> </ul>  | —      |
|  |    |  |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>代表製品(バックホー)から他製品(ローダー等)への展開</li> <li>1990年度時点の排出量推計実施</li> </ul>  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>ライフサイクルアセスメント(LCA)の導入、展開継続               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) グループ代表機種によるLCA分析の試行</li> <li>2) LCA分科会活動を通じた各事業体への展開</li> <li>3) LCA手順書(ヤンマー標準PCR)の作成</li> </ol> </li> </ul> | P39    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーを含むエネルギーシステムの開発、販売</li> <li>電動化、ハイブリッド化の検討</li> </ul>  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの導入可能性の調査、検討</li> <li>作業機の電動化、ハイブリッド化の試行、検討</li> </ul>   | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>業界活動および情報サービス活用による情報収集</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会情勢、業界他社動向の調査</li> <li>グループ製品への導入可能性検討</li> </ul>  | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>排ガス規制に対する早期認証の取得</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>排出ガス規制の遵守</li> <li>省エネラベルの認証動向調査、グループ製品への展開検討</li> </ul>  | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>2011年度 360億円 ⇒ 2012年度500億円</li> <li>環境製品に関する基準の見直し(定義の明文化)</li> </ul>                                       |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境指向商品および環境配慮商品の全体売上比率の拡大</li> </ul>  | P36-38 |
|  |    |  |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー使用量:原単位あたり 11.0%削減</li> <li>温室効果ガス排出量:原単位あたり 1.9%削減</li> <li>電力見える化システム導入による生産設備の省エネ推進事例の紹介</li> </ul> |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>原単位あたり2005年度比10.4%(総量 12.0%)以上削減</li> <li>電力見える化の実施範囲拡大、実証結果の分析および横展開</li> <li>社内プロジェクトとの連携強化</li> <li>社内委員会を活用した情報共有、省エネ計画の設定準備</li> </ul>   | P39    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>建機事業に関する物流データの集計開始</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>自社およびグループ製品、部品の物流データ集計範囲拡大</li> </ul>   | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー使用量:原単位あたり 5.3%削減(前年度比5.0%削減)</li> <li>温室効果ガス排出量:原単位あたり 4.3%削減(前年度比5.0%削減)</li> </ul>                  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>原単位あたり2009年度比24%(総量 4.4%)以上削減(ヤンマーの所有物)</li> </ul>  | P39    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>海外現法を中心としたデータ集計範囲の拡大</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>データ未集計の各事業体への指導</li> <li>海外の温室効果ガス関連法令の動向調査</li> </ul>  | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>国内事業所:エネルギー使用量 総量で± 0.0%</li> <li>温室効果ガス排出量 総量で+ 8.7%</li> <li>海外事業所:製造会社を中心にデータ集計開始</li> </ul>             |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>原単位あたり2009年度比24%(総量 16.0%)以上削減</li> </ul>   | P39    |
| (主だった活動実績無し)   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>自社の現状および他社動向の調査</li> <li>資源投入量、廃棄物データの集計実施計画の立案および提示</li> </ul>   | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>原単位あたり 47.2%削減</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>上水資源投入量を、原単位あたり2005年度比32%以上削減</li> </ul>  | P41    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>原単位あたり 1.1%増加</li> </ul>  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>紙資源使用量を、原単位あたり2005年度比16%以上削減</li> </ul>   | —      |
| —  | —  | —  | —      |
| —  | —  | —  | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン購入対象比率 71.7%</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>未集計拠点のデータ集計開始</li> <li>グリーン購入対象品の把握</li> </ul>  | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>原単位あたり 5.3%削減</li> <li>最終処分率 11.4%</li> <li>再資源化率 85.2%</li> <li>国内事業会社への業務支援実施</li> </ul>                  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>原単位あたり2005年度比16%以上削減</li> <li>廃棄物等の削減に関する情報共有ソース(DB等)の構築</li> <li>国内販売会社の廃棄物排出量データ把握に向けた業務支援</li> </ul>   | P41    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>製品アセスメント規定の見直し、グループ統一基準での評価を開始(リサイクルに配慮した設計の評価を含む)</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>3R実施に向けた規格の制定、関係部門への周知</li> </ul>   | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>原単位あたり 16.5%削減</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>原単位あたり2005年度比16%以上削減</li> </ul>   | P40    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>高濃度PCB使用製品の管理および処分継続</li> <li>PCB処理の新技术開発への支援実施</li> </ul>  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>高濃度PCB使用製品の管理および処分時期の確定</li> <li>低濃度PCB使用製品の管理徹底および処分方法の検討</li> </ul>   | Web    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ統一基準による調査の実施</li> <li>調査結果の取り纏め、情報提供</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ共有の調査システムによるREACH規制対応調査実施</li> <li>取引先、顧客等からの問い合わせへの対応</li> </ul>   | P40    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン調達ガイドライン、社内規格の改定</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>法令、条約の規制動向把握およびグループ各社への情報展開</li> <li>自主規制(グリーン調達ガイドライン、YIS規格)の最新版管理の実施</li> </ul>   | P40    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>切り替え未対応物質の切り替え実施</li> <li>グループ統一基準による調査の実施</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>自主規制4物質および各種法令による使用禁止物質の切り替え促進</li> <li>グリーン調達ガイドラインに基づく化学物質調査の実施、調査結果の取り纏め</li> </ul>  | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>社会情勢、周辺環境に配慮した自主基準の見直し</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会情勢を踏まえた自主排出基準の定期的な見直し</li> </ul>  | P40    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>工場を中心とした植樹、緑化を推進</li> <li>工場、周辺地域へ清掃活動を拡大</li> </ul>  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>事業所および建物の緑地、環境施設面積の拡大</li> <li>清掃活動を通じた地域住民との交流促進</li> </ul>  | P51    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>バイオマス、太陽光等の再生可能エネルギーを活用した製品開発、営業提案の実施</li> <li>作業機の電動化検討</li> </ul>   |    | —  | —      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ミツバチプロジェクトの継続</li> <li>琵琶湖のヨシ植えプロジェクト等への参画</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>生態系保存に貢献できる活動の計画、実施</li> <li>事業活動および地域交流を生かした、新しい貢献活動の提案</li> </ul>   | P50    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>周辺清掃を中心としたボランティア活動の計画、実施</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>事業所あたり最低1件以上実施</li> </ul>   | P51-53 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>事業所、グラウンドの開放、住民招待、工場見学、親睦事業の協賛等の実施</li> <li>ヤンマーミュージアムの開場</li> </ul>  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>事業所の外部開放の機会提供(工場見学、厚生施設の一般利用等)</li> <li>親睦イベントの積極的な主催および協賛</li> </ul>   | Web    |

## ヤンマーの環境指向商品

### 小形エンジン事業

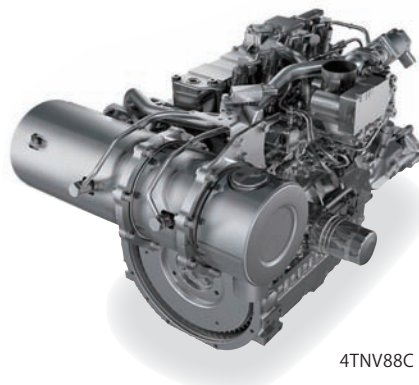
### 立形水冷ディーゼルエンジン TNVシリーズ

## 世界一厳しいスイス規制で小形エンジンとして初の認証を取得

コモンレールシステム、ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) およびEGR (排ガス再循環) の最適化により、世界で最も厳しい排出ガス規制の一つであるスイスの大気汚染防止法の認証を世界で初めて取得しました (19~37kWクラス)。米国や欧州の規制が排出ガス中に含まれるすすなどの浮遊粒子状物質の質量を規制するのに対し、この規制は粒子数を規制する新しい考え方であり、将来的には世界各国が追随するものとみられています。

今後もより厳しくなる環境規制にタイムリーに対応

し、世界中の産業機械メーカーに世界一のクリーンディーゼルを供給していきます。



4TNV88C

### 大形エンジン事業

### 船用主機関 6EY17W

## 高い信頼性と経済性を求めて進化した環境対応型高性能エンジン

高圧ミラーサイクルシステムなどの最新テクノロジーを取り入れることにより、漁船、タグボート用主機関に求められる高出力、高トルク、低燃料消費とIMO (国際海事機関) 2次規制値 (NOxを約20%削減) をクリアする低エミッションを同時に実現しました。この地球環境と調和した環境対応型高性能エンジンがお客様の生涯価値評価の向上 (L.C.V.) に貢献します。



6EY17W

### マリン事業

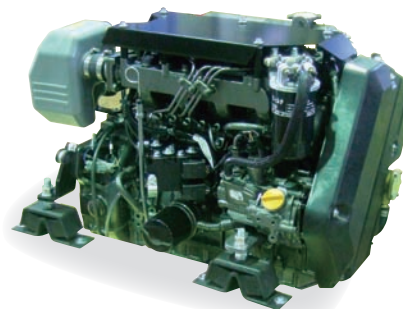
### セイルボート用ディーゼルエンジン 新JHシリーズ

## コモンレール化により規制適合と商品性を両立

新JHシリーズはコモンレール式燃料噴射装置を採用し、従来の機種との搭載互換性を確保した上で、2014年から米国で施行されるEPA3次規制にEGRや後処理装置を用いることなく適合しました。

従来の機種に対してNOxを20%、PMを40%減少させた一方で、低騒音、低燃費、良好な始動性を達成しました。

また性能面だけでなく、海水ポンプの位置やオイルレベルゲージの長さを見直すなど、メンテナンスの容易化にも配慮しました。



4JH57



## 釣り機能と、クルーザー並みの居住性を両立させたフィッシングクルーザー

フィッシングクルーザーとして人気のあるEX33に市場ニーズを織り込み、このクラスで初となるFB（フライブリッジ）仕様を追加しました。

船体には軽量化と長寿命化に優れた強化プラスチック（FRP）を使用し、キャビン内には低騒音・低振動化の技術を投入し、静粛性を向上しています。

また、浸水警報装置の設置やライト類のLED化など、安全面や省電力化にも配慮しています。



## 環境にやさしい高効率エンジンを搭載、コンフォートキャビンと丸ハンドルFDSで、作業をより快適に



フルクローラの低接地圧とパワフルな牽引力が、湿田作業や重牽引力作業に大きな威力を発揮。さらに、静かでワイドなコンフォートキャビンと丸ハンドルFDSがスムーズな快適操作を実現します。

エンジン全体を高度に電子制御し、高圧の燃料をコモンレール（蓄圧室）に蓄え、最適な量・タイミングで超高圧噴射し完全燃焼することにより燃焼効率を高め、クリーンな排気と高出力が可能となりました。

## RGシリーズの経済性能と環境性能に磨きをかけて、シリーズを充実

伝達効率の高いHMTトランスミッションとの相乗効果でガソリンエンジン搭載機種に比べて燃料消費率を約25%低減。また苗補給時にはエンジン回転を自動で低速まで下げることが可能となりました。施肥機のブロワも停止する苗つぎエコ機構で、低燃費・低騒音（70dB以下）の本格プロ農家向け田植機RGシリーズに、新機種を追加しました。

全型式に、燃費が良くCO<sub>2</sub>排出量が少ない上に、高排気量のディーゼルエンジンを搭載し、新たに後処理の容易な5,7条植え型式を追加することで、高能率化による収益性を高めました。



## ヤンマーの環境指向商品

エネルギーシステム事業

AP中形Dシリーズ AP155D・230D・280D・375D

### エンジン始動時の黒煙の低減化と容積率20%のコンパクト化を実現

電子制御式エンジンの採用により、エンジン始動時の黒煙を従来機種より75%以上低減するとともに、調速性能が向上したことで、周波数変動に敏感な負荷への電源供給も可能になりました。

さらに、従来機種より容積比で約20%のコンパクト化を図り、既設ビルへの更新需要等、設置・搬入スペースが狭小な設備への設置性および搬入性向上を実現しました。



建機事業

バックホー ViO45-6・ViO55-6



### 油圧回路の効率化とエンジンの省エネ化により、環境規制への対応と低燃費の両立を実現

排ガス規制に対応したクリーンなディーゼルエンジンの搭載、油圧回路を効率化した新油圧システムの採用と電子制御によりエンジンの省エネルギー化を実現し、環境規制への対応と低燃費を高次元で両立しました。また、より多くの人が快適・簡単に機械を操作できるユニバーサルデザインを取り入れ、心地よく使いやすい操作性を実現しました。

※低燃費：電子制御エンジン+油圧回路の効率化で従来機より燃費30%低減。エコモード機能を組み合わせれば、さらに40%まで燃費低減

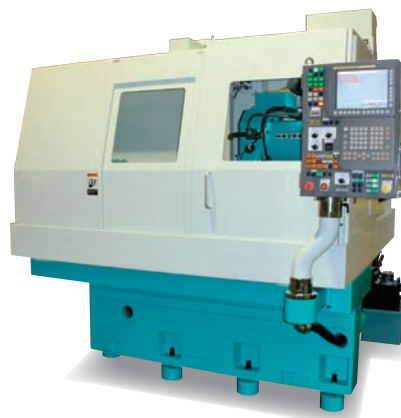
コンポーネント事業

工作機械 ギヤホーニングマシン GFCα

### 作業環境、操作性を高め性能がさらに進化

トランスミッションに組み込まれるギヤ歯面を高精度に仕上ることのできる工作機械です。自動車のハイブリッド化、電動化にともないトランスミッションに求められる振動・騒音への要求が高まるなか、焼入れ後のギヤ歯面をホーニング加工の利点である良好な加工面の粗さに仕上げることでトランスミッションの低振動・低騒音化に貢献しています。

また、加工室内に隔壁を設けてワーク交換エリアと加工エリアを分けることで、操作性の向上とクーラントの飛散領域のミニマム化を実現しています。



## 地球温暖化防止への取り組み

### ● 製品のライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量の把握と削減

ヤンマーグループでは、原材料の調達から設計、製造、流通、使用、消費・廃棄にいたるまでの商品のライフサイクルの各ステージでどのような環境配慮がなされているのか、それを定量的に把握・評価するためにLCA（ライフサイクルアセスメント）の導入を進めています。

2012年度は建設機械部門でLCA評価を実施し、現行機種における環境負荷削減率（対従来機種）を評価しました。LCA評価を他の商品部門へ展開するとともに、いままで以上に社員への教育を重視し、マニュアル類の更新と整備に取り組んでいます。

### ● 事業活動におけるエネルギーの効率使用とCO<sub>2</sub>排出量の削減

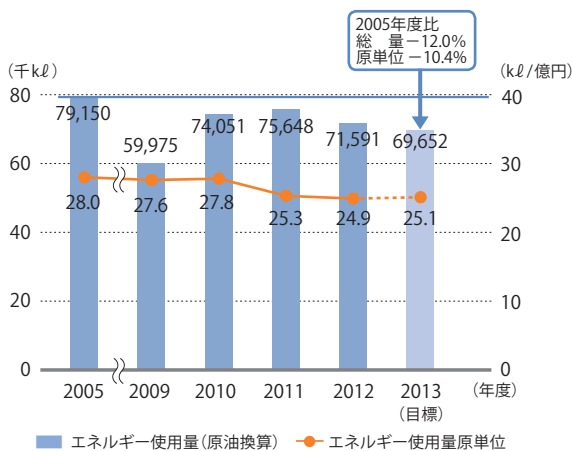
ヤンマーグループでは、国内に展開する全生産事業体において生産活動に使用する電力や燃料などあらゆる種類のエネルギーを効率的に使用する態勢となり、CO<sub>2</sub>の排出量削減に取り組んでいます。

2015年までの削減目標はエネルギー使用量および効率使用の指標となる原単位で13%、CO<sub>2</sub>排出量も同

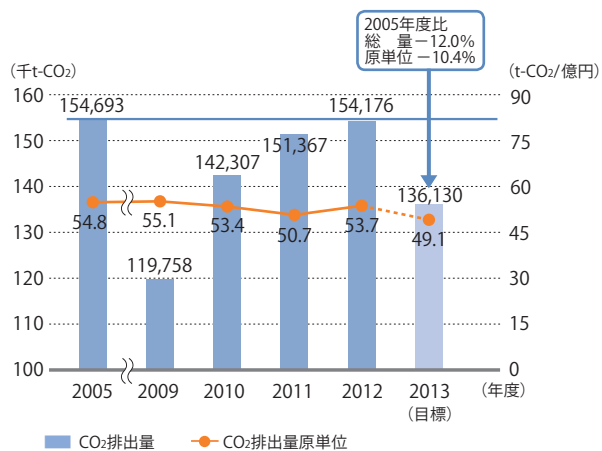
じく13%に設定しています（いずれも2005年度比）。

2012年度は、エネルギー使用量が前年度比で約4,000kl削減されたにも関わらず、原子力発電所の稼働停止の影響で、CO<sub>2</sub>排出量が前年度比で約2,800t増加しました。

■ エネルギー使用量・エネルギー使用量原単位



■ CO<sub>2</sub>排出総量・CO<sub>2</sub>排出量原単位



## Topics

### 「ながはまグリーンカーテンコンテスト」で最優秀賞を受賞

滋賀県長浜市が開催した「ながはまグリーンカーテンコンテスト」において、びわ工場が事業所部門で最優秀賞を受賞しました。

同コンテストは、温暖化対策の一環として、日の当たる窓をアサガオやゴーヤなどのつる性植物で覆う「グリーンカーテン」を競うものです。びわ工場は、フウセンカズラで応募しました。

栽培は社員が担当し、高さ3.5m、幅100mにわたるグリーンカーテンが完成しました。なお、収穫した種は社員に配布したほか、10月13日の授賞式の際、来場者にも配布しました。





## 環境負荷物質の削減・管理

### ● 化学物質の排出削減

環境に配慮した製品開発と環境リスクの低減を図るために、PRTR法の指定化学物質の使用量の管理・排出量の削減に取り組んでいます。

2012年度のPRTR法対象物質の使用量は、基準年である2005年比において、原単位で16.5%削減しましたが、前年度比で0.9%増加しています。

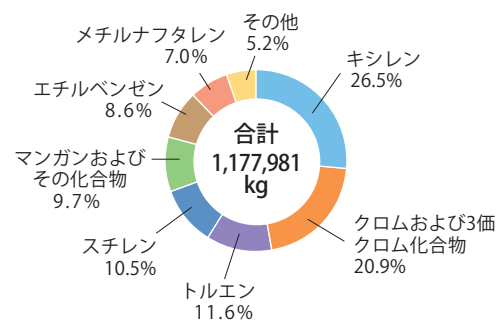
2011年のPRTR法改正に伴い、PRTR対象物質が462物質に拡大した影響で、石油類（A重油・軽油等）の使用量が多い工場を中心に、対象物質の取扱量が増加したことが大きな要因となっています。

基準年の2005年と対象物質が大きく異なる現状を考慮して、今後は基準年度の変更等、管理手法の見直しを検討中です。

しを検討中です。

\*PCB保有状況、PRTR法対象化学物質取り扱い状況のデータはWebサイトに掲載しています。

#### ■ PRTR物質の取り扱い状況



### ● サプライチェーン全体で環境負荷物質を管理

当社のグリーン調達ガイドラインに基づき、取引先から供給される資材や部品に含まれる環境負荷物質の含有量を調査しており、2008年より、取引先から環境負荷物質の含有情報を提供していただいています。

またそれらの情報を一元管理する「製品含有環境負荷物質管理システム」の構築を行い、自主規制物質に

ついては、社内適応基準を定め、計画的に削減を推進しています。

#### ■ 自主規制物質の一覧表

| 自主規制物質  |
|---|
| 物質は鉛およびその化合物、水銀およびその化合物、カドミウムおよびその化合物、6価クロムおよびその化合物 |

### ● 法規制の遵守と汚染防止

ヤンマーグループでは、環境への負荷を抑えるために日頃から関連法規の遵守を心がけるとともに、汚染状況等の測定値を常にチェックしているほか、法定値より厳格な自主基準値による運用・管理を心掛けています。

2012年度はグループ全体で環境法令違反事例はありませんでした。過去に発生した環境事故の再発防止を図るため、グループ全体で情報の共有・日常点検等の取り組みを実施しています。

### ● 周辺環境への配慮

ヤンマーグループの各工場では空気や土、水などへの汚染を防ぎ、周辺環境が常に良好な状況を維持できるようにさまざまな対策に取り組んでいます。

たとえば主力製品であるエンジンは、開発途上における耐久試験、出荷前の試験運転時に発生する排気ガスによる大気汚染を防止するため、後処理装置の設置等の対策を実施しています。

また、場内で使用する化学物質・油類が漏洩することによる周辺水域・土壌の汚染防止のため、配管・貯

蔵設備の定期検査、埋設配管の架空化、漏洩発見時に備えた教育訓練等の対策を行っています。

近年の都市化の影響は、都市部に所在するグループ各工場にも影響を及ぼしており、騒音・臭気等へのより厳格な対策が要求されています。

各工場では、防音設備の拡充に努めているほか、夜間・休日等周辺環境への影響が特に大きい時間帯については、周辺住民への事前連絡・騒音が発生しやすい作業の自粛等の対策を行っています。

## 資源循環型社会への貢献

### ● 廃棄物の削減とリサイクルの推進

ヤンマーグループでは、生産工程における廃棄物発生量の削減に取り組むとともに、廃棄物の分別によるリサイクル化と有価物化を推進しています。

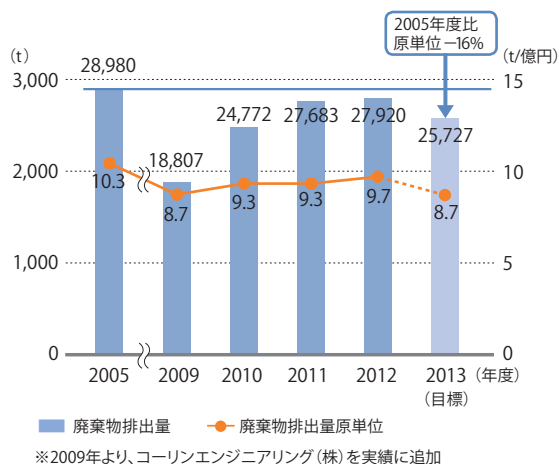
各工場では分別を徹底するために廃棄物の収集場、各現場、事務所などに分別表を掲示するとともに、社員教育の実施やパレットのリターナブル化など再資源化に取り組んでいます。

工場から排出される廃油については、生産工程での

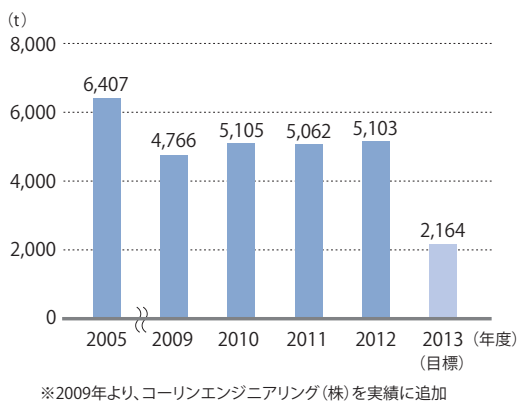
異物混入を防止することで有価物化し、資源を有効利用しています。また、段ボールやシュレッター紙のリサイクルを通じてコストを削減しています。

廃棄物排出量については、原単位で2012年度は2005年度比で14%以上削減することを目標としていましたが、グループ全体では5.1%削減となり、目標を達成できませんでした。

#### ■ 廃棄物排出量・廃棄物排出量原単位



#### ■ 廃棄物最終処分量



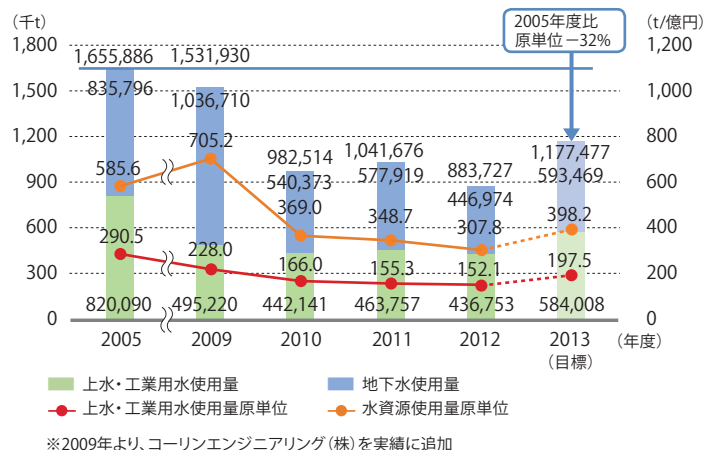
### ● 水資源使用量の削減

ヤンマーグループでは、省資源化への取り組みとして工場内における水の循環利用を推進しています。

水資源使用量については、原単位で2012年度は

2005年度比で28%以上削減することを目標としており、グループ全体では47.2%削減となり目標を達成することができました。

#### ■ 水資源使用量・水資源使用量原単位



ヤンマーグループでは、企業倫理を徹底する社内態勢づくりを進めるとともに、サプライヤーとの良好なパートナーシップ構築へ向けて対話と交流を重ねています。

## 法務コンプライアンス推進態勢

ヤンマーグループでは、経営トップはもとよりグループ社員全員に、企業倫理ならびに法令遵守意識を浸透させることがCSR活動のベースであると認識しています。

2013年4月からは、ヤンマーグループリスクマネジメント委員会の中の専門部会として、法務コンプライアンス委員会を設置して、法務コンプライアンスに関わるリスク低減活動を継続的に推進しています。

### ● 内部報告制度「倫理の目安箱」の運用

ヤンマーグループでは内部通報制度を「内部報告制度（通称：倫理の目安箱）」と呼んでいます。2003年から運用を開始し、年平均で20件の利用件数があります。

2012年7月からは内部報告制度の電話回線をフリーダイヤル化し、利用者の利便性の向上を図りました。その成果もあり、2012年度は28件に増えました。この電話による利用は約50%を占めています。この

窓口とは別に、グループの各組織から約40件の相談と報告が法務コンプライアンス委員会事務局に寄せられます。

内部報告（通報）案件については事実関係の調査を行い、コンプライアンス違反行為にあたるかどうかを判断します。違反と認定した案件については、就業規則に照らして適切に処罰するとともに再発防止策を策定し徹底します。

### ● コンプライアンス研修・啓発活動

コンプライアンス研修は毎年、新入社員と新任管理職全員を対象に実施しています。そのほか、各事業所単位での研修や「独禁法・下請法」などのテーマ別研修も随時行っています。

啓発活動は社内のイントラネットを活用し、「グループ内で発生したコンプライアンス違反の過去の事例」や「海外におけるタブー集」などを紹介し、企業倫理意識の高揚を図っています。

### ● 海外現地法人との定期的なコミュニケーション

海外現地法人の事業活動にもコンプライアンスの考え方を反映させるため、定期的に海外事業活動の中核となっているRHQ（リージョナル・ヘッド・クォーター）の幹部やCSR担当者とリスク・コンプライアンス・法務関係その他をテーマに定期的に情報交換および情報共有の場を設けています。



### ● 法務コンプライアンス委員会の重点活動

#### ① 契約書の総点検

2012年度は、海外におけるビジネス活動において法的リスクが顕在化したこともあり、海外の取引先との契約書（締結有無と契約条項）の一斉点検を行いました。また、国内の取引先との契約書には「暴力団排除条例」の項目を必ず織り込むように指導しています。

#### ② コンプライアンス「行動基準」の改訂

時代の流れとともに法令の強化や価値観の変化があります。これらの変化を踏まえ、2013年10月に「行動基準」を改訂し、冊子として全グループ社員に配布しました。



## 購買における取り組み

### ● 購買方針説明会の開催

ヤンマーグループはサプライヤーとの相互理解を深めるため、年頭に主要サプライヤーに対して年度および中期における「購買方針説明会」を開催するなど、さまざまなコミュニケーション活動を展開しています。

2012年2月には5年間(2011～2015年)の原価低減目標を設定し、グループを挙げて目標に取り組むためにサプライヤーからもコストダウンにつながるさまざまなアイデアの提案を求めると同時に、商品機能の見直しや部品の共有化、生産性改善の取り組みなどへの協力を要請しました。



### 購買の基本方針

#### ● パートナーシップの強化

長期的視野に立ち、サプライヤーとの間で相互理解、信頼関係を深めています。

#### ● 安定供給

サプライヤーの経営状況・生産性・リスク回避体制・海外拠点からの供給などについて監査・指導を行い、パートナーシップに基づく供給量の確保と納期遵守に取り組んでいます。

#### ● 品質確保

サプライヤーに対する品質監査・指導、品質会議、新商品の初期安定管理、「品質重点管理制度※」および「品質管理優良認定制度」を実施することで、納入部品のよりよい品質の確保を目指しています。

※品質重点管理制度：毎年、品質の評価が低いサプライヤーに対して特別な指導を行う制度

#### ● 原価低減

原価目標を掲げ、原価低減に取り組んでいます。

#### ● 法の遵守

社会の規範・法令およびその精神を遵守し、機密保持の徹底を図ります。

### ● グリーン調達

「ヤンマーグリーン調達ガイドライン」を制定し、取引先と協働しながら世界各国で環境に配慮した安全・安心な部材の調達を推進しています。

取引先の選定にあたっては品質、価格、納期などに加え、環境マネジメントシステムを構築して環境保全

活動に意欲的に取り組んでいる取引先を優先しています。

#### ● グリーン調達ガイドライン

<http://www.yanmar.co.jp/csr/green/index.html>

### ● サプライヤーへの改善支援

ヤンマーグループの資材部では国内・海外のサプライヤーに対し、「Q:Quality(品質)、C:Cost(原価)、T:Time(時間)」の側面から毎年、数社を選定し改善指導を実施しています。

また、2007年度から「品質改善」「生産性向上」「在庫低減」に向け、サプライヤー体質およびパートナーシップの強化をねらいとしたYWK活動を展開しています。

#### YWK(Yanmar Way by Kaizen with Supplier)活動

この活動はYWK活動をサプライヤーに拡大したものです。YWK(Yanmar Way by Kaizen)活動はヤンマーグループが行っている改善活動で、国内7事業、17工場で不良率低減、リードタイム短縮、製造コスト低減に取り組んでいます。



#### 担当者の声

#### グローバル競争に勝ち抜く改善マインドとスピードアップ



小形エンジン事業本部 生産統括部 生産企画部 管理グループ

寺井 昭

小形エンジン事業本部では海外現地生産と国内再編成を推進しています。その中で、取引先とはQuality(品質)、Cost(原価)、Time(時間)のQ・C・Tを早期に達成するため、個別に共有する課題を明確にすることで目標達成を目指し、協働で改善活動に取り組んでいます。YWK活動

動ではコミュニケーションとチームワークを大切にしています。

また、取引先同士が互いに研鑽できるように毎年成果発表会を開催し、日常の活動を通じて強固なパートナーシップの構築を目指しています。

ヤンマーグループでは、安全で高品質な満足度の高い商品をお届けするためにお客様から寄せられる声を活かした品質保証体制の確立に取り組んでいます。

## 品質への取り組み

### ● 基本的な考え方

ヤンマーグループでは、世界中のお客様の課題解決を最優先に考え、共に課題を発見し解決策を提供していくことを目指しています。社員一人ひとりが、社会的要求に応え、且つお客様の課題を解決する商品・サービスを迅速にお届けし、お客様からの信頼とご満足をいただくことを日々追求しています。

また、エンジン業界で初めて全社的な品質管理で顕著な効果をあげた企業に与えられるデミング賞「実施賞」受賞(1968年)を契機にTQM(総合的品質管理)活動をスタートし、QCサークルなどを通じて全社員が品

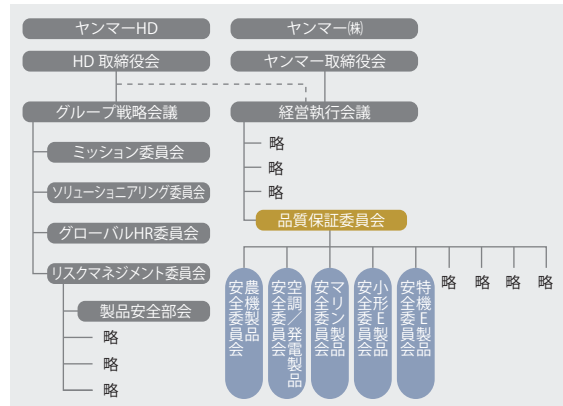
質のさらなる向上に取り組んでいます。

製品の企画・開発、製造、販売、サービスなどの各段階では品質・安全確保に向けた体系的な活動も行っています。とくに安全に関しては独自の社内安全基準を定め、国内外の法規制とともに遵守を徹底しています。新製品開発の各段階でも事前に危険性を評価するリスクアセスメント、複数の視点から設計を審査するデザインレビューなどを実施し、品質・安全の両面から厳しくチェックしています。

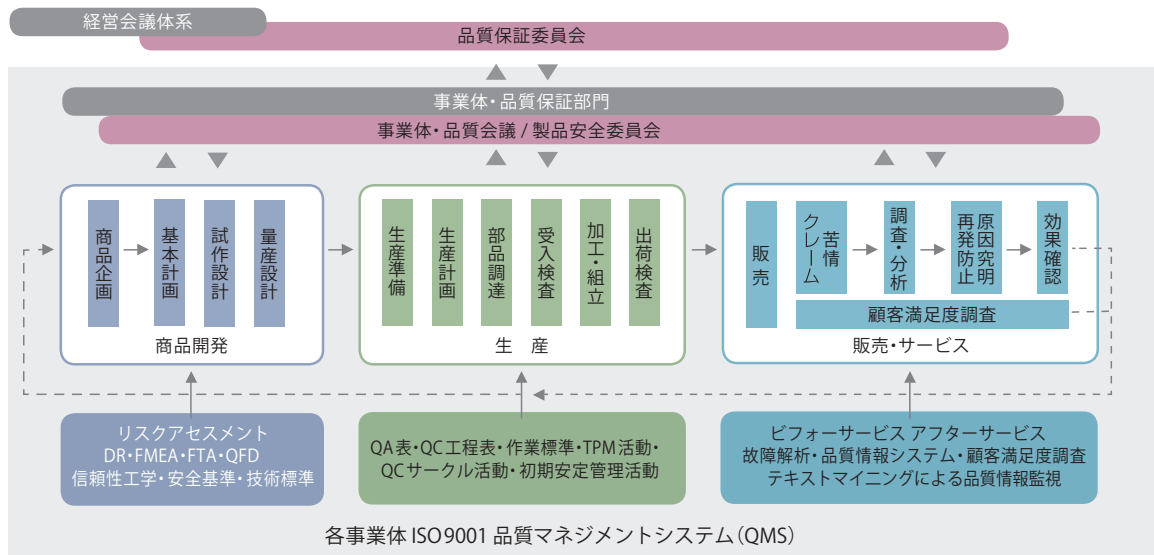
### ● 品質保証体制

ヤンマーでは、各事業体の品質保証部門が窓口となって製品の企画・開発から製造、販売、サービスまで一貫した品質保証の体制を確立しています。

製品の安全確保のため各事業体に製品安全委員会を設置し、全社品質保証委員会を通じてグループ全体を統括しています。品質マネジメントの国際規格である「ISO9001」は国内外の30事業体で認証取得しています。



### ■ ヤンマーの品質保証体系

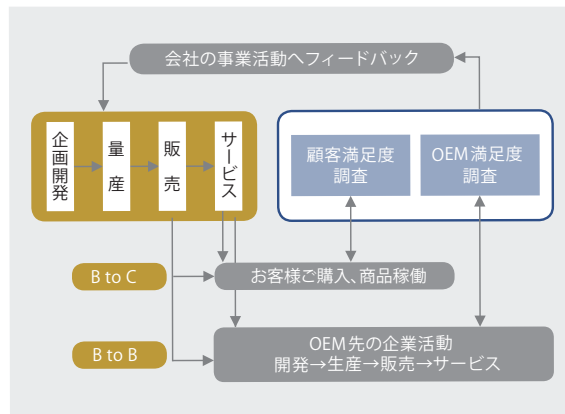


## 「お客様満足度調査」を実施

ヤンマーでは毎年お客様を対象とした営業・サービス・商品についてのアンケート調査、無料点検記録簿付き保証書の発行などを通じてアフターサービスの向上に取り組んでいます。お寄せいただいたご意見やご要望を新商品の企画・開発に反映させることはもちろん、販売やサービス面の充実と向上に活かしています。

また、お客様の声を的確に把握し、お客様の収益拡大につながる取り組みを実践しています。

### ■ お客様満足度調査

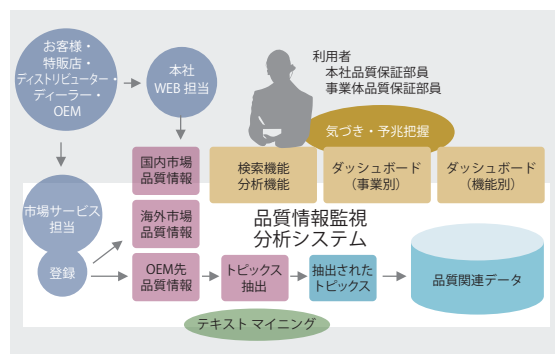


## 品質情報監視分析システムの構築

品質上の問題点を早期に発見するため国内の品質情報（YTIS）と海外の市場品質情報（e-Claim、Warranty-pro、OEM情報）を監視分析するシステムを構築し、すばやい情報収集と重要な問題点を抽出する作業の効率化を実現しました。

その中で明らかになった品質面の問題については、内容を詳細に分析したうえで各担当事業部へ向けて関連情報をフィードバックしています。

### ■ 品質情報監視分析システム



### 担当者の声

お客様に対するサービスの向上を目指し、CS活動に努めています。



YANMAR ASIA (SINGAPORE) CORPORATION PTE. マネージャー 藤本 哲正

私たちはお客様の生涯価値を高めることを最大の目的として考えています。そこで、お客様からの情報を迅速・的確に分析し、スピーディかつ最適なお提案を行うため、日々CS活動に取り組んでいます。

その一環として、昨年から実機を使った技術研修会を開催中です。また、エンジン故障時のダウンタイムを少しでも短くできるように、販売代理店・特約店の技術力の向上にも努めています。

## リコールへの対応

製品に問題が発生し、処置が必要と判断した場合には、お客様の安全と被害の拡大防止を最優先に製品回収ならびに製品の交換、改修（点検、修理等）を迅速に実施しています。製品リコールに関しては関係機関※1に報告するとともに、ヤンマーのホームページ上に情報を開示し、必要によっては新聞紙上にリコール社告を行い、実施率の向上を図っています。

### ■ 品質に関する重要なお知らせ

<http://www.yanmar.co.jp/important/index.html>

### ■ リコール件数の推移 ※2

| 年 度    | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 |
|--------|------|------|------|------|------|
| リコール件数 | 1    | 8    | 7    | 5    | 8    |

※1 国土交通省 経済産業省 農林水産省 日本船舶工業会など

※2 国交省リコール・改善対策および消安法に基づく製品リコールの報告件数



ヤンマーグループでは、地域社会と共に歩み、共に生きるという考えを基本に各事業所・国内外の関係会社では独自の社会貢献活動を展開しています。

## 東日本大震災の被災地復興支援活動

### ● 三陸の漁業を復活させるための取り組み

東日本大震災にともなう津波によって、三陸沿岸は壊滅的な被害を受けました。漁船をはじめ、船の係留所や住居が破壊され、数多くの尊い命が失われました。

ヤンマー船用システムでは、震災の直後から三陸沿岸の漁業を取り戻すための復興プロジェクトを立ち上げました。そして、新造船の納品に向けた活動を急ピッチで進めてきたほか、現地でのサービス支援に組織一丸となって取り組んできました。

もともと、新たな漁船の確保は簡単ではありませんでした。和船と呼ばれる漁船は船型がプレジャーボートと異なることから、設計を一から行なう必要があります。また、地域ごとの漁の形態に合わせた艀装を現地で行なわなければなりません。そのため、生産能力には限界があったのです。それでも、これまでにヤンマー造船をはじめとして、日本の船舶関係の業界が総力を挙げて、漁船の生産にあたってきました。

被災した直後は、プレハブ造りの三陸営業所に全国から応援の社員が交替で滞在し、漁業の復興に向けた取り組みに努めてきました。現在は山田営業所と大船渡営業所の2か所に分かれて、営業活動を行っています。山田営業所では、受注した漁船をすべて納品することができました。大船渡営業所においても、全国からの応援体制のもとで一日も早い納品に向けた準備を進めているところです。

新造船の納品が進んできたとはいえ、現地における漁業の復興は道半ばの状態です。新造船の生産や艀装だけでなく、係留所など漁港設備の充実も欠かせません。ヤンマー船用システムでは、水揚げした水産物の紫外線殺菌装置の設置も手がけるなど、今後も地元の漁業の復興を力強く支えていきます。



仮修復した工場



艀装中の漁船



三陸営業所のスタッフ

#### 担当者の声

漁師さんの笑顔を取り戻すことが、私の願いです。



ヤンマー船用システム(株) 東北営業部 山田営業所 販売グループ 専任課長 渡辺 明紀

大震災にともなう津波で被災した当初は、私の実家が流され、父を亡くすなどして、何も考えられない日々が続きました。しかし、全国からさまざまな支援を受ける中で、再度立ち上がり、一歩ずつ復興に向けて歩んでいます。漁師さんたちを取り巻く環境は依然として厳しいも

のがありますが、一刻も早く漁を再開できるように、新造船の納品を目指して準備を急いでいるところです。いつの日か三陸の漁業を復活させ、漁師さんたちの笑顔を取り戻すことが私の願いです。今後も営業所のメンバーが一丸となって、震災復興に全力を尽くしていく覚悟です。

## ● 綿花栽培による被災農地の再生を支援

ヤンマーは、東日本大震災の被災農地を綿花栽培によって再生させる「Tattonプロジェクト」に対して、トラクターの貸与などを通じて協力しています。

同プロジェクトは、津波によって塩害を被った農地を、除塩作物である綿花の栽培を通じて再生させ、数年後には田畑として復活させていく試みです。

ヤンマーはこの取り組みに賛同し、トラクターEG65 CYUXQW型とロータリー作業機を貸与することで、プロジェクトへの支援を行っています。2012年12月に福島県の綿花畑で行われた納車式では、農家の方々やプロジェクトの関係者、ヤンマーの社員のほか、人気エアバンドのゴールデンボンバーが参加。式の模様はテレビを通じて放映されました。

現在、トラクターは宮城県東松島の農家が手がける綿花栽培の農地で活躍しています。今後は、ヤンマー農機・東日本カンパニーおよび(株)宮城ヤンマー商会・石巻支店が、トラクターのメンテナンスに対応することになっていて、ヤンマーグループが一体となってプロジェクトを支えていきます。



### お客様の声

田んぼの再生に向けて、綿花栽培が軌道に乗りつつあります。



熱海 修市 様

初年度は綿花栽培の勝手がわからず、種まきから収穫まで手探り状態でした。それだけに苦労の連続でしたが、大きなやりがいを感じることができました。今年は栽培の要領がわかってきたため、約0.8haの耕地で綿花を栽培し、一部は地元の小学生向けに体験農場としています。地元の方々も綿花栽培への関心を高めており、よう

やく希望の光が見えてきました。

今後は遊休農地や除塩の済んでいない農地でも綿花栽培を検討中です。田んぼの復活は生き残った者の使命。全国からの復興支援に応えるためにも、農業の復興に真剣に取り組んでいきます。

## ● 九州の豪雨被災地で農業復興を支援

2012年7月に九州北部を中心に発生した集中豪雨は、熊本県や大分県、福岡県などに甚大な被害をもたらしました。中でも熊本県阿蘇市では農業の被害額が100億円を超えるほどの大きな被害となりました。

ヤンマーグループでは、被災地の復興を支援するためにボランティア団体を結成。各カンパニーや工場、本社から延べ350名の社員が、ビニールハウスを埋め尽くした土砂の搬出作業などに従事しました。

ボランティア活動の3か月後、J A阿蘇の組合長などが来社され、ヤンマーの取り組みに対する感謝の言

葉をいただきました。また、災害から1年経った今年8月上旬、熊本県阿蘇地域振興局から農地復興に向けた事業計画の協力依頼があり、地元との信頼の絆が深まっています。



### 担当者の声

お客様の農作業を守ることの大切さを実感しました。



ヤンマー農機販売(株) 九州カンパニー  
アグリプロ推進部 アグリスポート部 畑作ナブラグループ

志水 亮太

昨年、水害復興ボランティアとして6日間の全日程に参加させていただきました。現地のハウスの中に入って2m近い浸水被害の爪あとを見た時、この度の水害のすさまじさを思い知りました。たいへん暑中での作業ではありましたが、終了後にお客様から「本当に助かった。おかげで思っていたよりも早く作業を再開できる」という

言葉をいただき、お客様の作業を止めないことの大切さを実感しました。

現在、畑などは9割ほどが復興していますが、被災された方々の住宅の復興にはまだ時間がかかるようです。一刻も早い完全復興に向けた活動が必要だと感じています。



## 農業の活性化

### ● ヤンマー学生懸賞論文・作文募集

ヤンマーでは、次代を担う若者たちに農業と農村の未来について自由な発想から論じていただくことを趣旨として、1990年から「学生懸賞論文・作文」の募集を行っています。

第23回となる2012年のテーマは「進化する農へ挑戦」でした。全国から論文74編、作文499編の応募があり、論文の部の大賞は「農業と医療・福祉の連携に関する展望～園芸療法的視点による一考察～」(愛媛大学農学部生物資源学科4年・中本英里さん)、作文の部の金賞には「繋ぎ伝えたい『農業』への思い～手に入れた羅針盤～」(群馬県立農林大学校農林部農業経営学科花き・果樹コース1年・藤江将大さん)がそれぞれ選ばれました。



### ● 子ども絵画展に協賛

ヤンマーでは、子どもたちがふるさとのすばらしさを発見することを通じて、水と土への関心を高めてもらうことを目的に、全国土地改良事業団体連合会が主催する「ふるさとのお田んぼと水」子ども絵画展に協賛しています。

第13回(2012年)には全国から8,745点の応募があり、入賞23点、入選92点、地域団体賞38点が決まり、ヤンマー賞には大窪真歩さん(鹿児島県鹿児島市立吉野小学校6年)の『お田植え祭』が選ばれました。



### ● 会員制体験型農園「ヤンマー遊悠ファームとよの」を開設

2012年5月、里山での農業体験を満喫していただける直営の会員制体験型農園「ヤンマー遊悠ファームとよの」を大阪府豊能町にオープンしました。

農業者の高齢化や担い手不足が進む中、遊休化する農地の増加が懸念されています。このような状況の打開と、国内農業を活性化するため、豊能町高山地区で遊休化の恐れのある農地を借りた上で、農業生産および都市住民の農業体験を提供するモデル農場を目指しています。

2013年からは、お米作り「田んぼでお米作り体験」と野菜作り「体験型農園」の2コースを準備するとともに、当社独自の機械講習会や、大阪府や地元の方と連

携した講習会、地域資源を活用した「ヤンマー資源循環農法」や地域伝統野菜の栽培など、地域に根ざした農業体験施設を目指しています。





## スポーツ支援

### ● 世界で愛されるサッカーを支援

ヤンマーは、長年にわたってセレッソ大阪のパートナー・カンパニーであるとともに、2012年のシーズンからは、香川真司選手が所属するマンチェスター・ユナイテッドのオフィシャル・グローバル・パートナーとなりました。

セレッソ大阪をその誕生以来サポートしてきたヤンマーは、香川選手が17歳の時からプロ選手として支え続け、今日に至っています。香川選手が世界最高峰のクラブに所属し、世界を舞台に活躍する姿は、世界各国での貢献を目指すヤンマーの姿勢と重なっています。

香川選手の活躍に見られるように「夢を持つこと、そして絶え間ないチャレンジ精神」を世界の人々と分かち合っていくため、これからもサッカーというスポーツと香川選手をサポートしていきます。



### ● アメリカスカップの有力チームをサポート

世界最高峰のヨットレースであり、「洋上のF1」と称されるアメリカスカップ。その舞台で、ヤンマーは前回のチャンピオンチームである「オラクルチームUSA」のオフィシャル・テクニカル・パートナーとしてサポート、2013年9月に開催された第34回アメリカスカップ本戦において、オラクルチームが使用する伴走艇2隻に、マリンエンジンとドライブセットを提供しオラクルチームUSAのアメリカスカップ連覇に貢献しました。

ヤンマーのマリンエンジンは、海の過酷なコンディションに耐えるスピードとパワー、耐久性を備えてお

り、その品質と性能は世界の海で高い評価をいただいています。



Photography: Guilain Grenier/ORACLE TEAM USA

## 教育支援活動 ～公益財団法人 山岡育英会～

初代社長の山岡孫吉は、世界の平和と繁栄・文化の向上に寄与する人材の育成を目的として、1950年に財団法人山岡育英会を設立しました。当会の奨学金給付を通じて、これまでに5,200名以上が学業を修了し、社会の各分野で活躍しています。

2013年度からは、従来の国内の高校生・大学生・大学院生・留学生への奨学金給付と事業に加えて、東南アジアでの奨学金給付事業を開始しました。学校に通いながらサッカーを続けることが経済的に

困難な中学生を対象に、タイ15名、インドネシア72名の奨学生を決定し、奨学生採用証書の授与式を現地で行いました。



採用証書授与式（国内）



採用証書授与式（タイ）

#### ■ 在籍者（2013年6月現在）

| 大学院 | 留学生    | 学部生 | 高校生 | 国内計 |
|-----|--------|-----|-----|-----|
| 32人 | 12人    | 8人  | 29人 | 81人 |
| タイ  | インドネシア | 海外計 |     |     |
| 15人 | 72人    | 87人 |     |     |

※奨学生同士の研鑽と親睦を図るために、技術系大学院生の「研究発表会」や外国人留学生を対象とした「日本の世界遺産を巡る研修旅行」なども実施しています。

## 地域活動

### ● NPO法人梅田ミツバチプロジェクトの支援

ヤンマーでは、社員の提案により2010年9月から旧ヤンマー本社ビル屋上で始まった都市養蜂活動「梅田ミツバチプロジェクト」を支援しています。この活動は、都市における養蜂活動を通じ、都市域の緑化推進や生物多様性保全への提言を行うとともに、採れたハチミツを利用した食育や地域社会の活性化を目的としています。現在、新本社ビルを建設中のため、隣のABC-MART梅田ビルの屋上を借りて活動を継続しています。

都市域では受粉を行う昆虫が少なく、実を結ばない樹木がたくさんあります。ミツバチは木々や草花の受粉を助けることから、受粉した木や草花は実をつけるようになります。その実を目当てに野鳥が集まり、食べた実の種子を運び、新たな緑の息吹が芽生えます。ミツバチは生態系の連鎖に不可欠な役割を果たしているのです。

同プロジェクトは始動以来3年にわたり、地域社会の皆様へ地元産のハチミツを味わう体験などから自然環境への興味を促す等の取り組みに努めてきました。そして、今後活動をより積極的に展開していくため、2013年7月、NPO法人格を取得しました。

都市と自然との共生を目指し、また、人と人、企業と企業を結びつけお互いの顔が見える社会や街づくりに寄与する取り組みを、これからも支援していきます。



日々のミツバチの世話



イベントへの出展



緑化推進活動

### ● 「淀川『花は咲く』プロジェクト」に協力

2013年3月20日、ヤンマー本社近郊の淀川左岸で「れんげの種まきイベント」が開催されました。この催しは、大阪市北区役所と社団法人大阪青年会議所との共催によるもので、淀川左岸沿いを緑化する「淀川『花は咲く』プロジェクト」の第一弾のイベントとして行われました。

ヤンマーでは同プロジェクトに協力し、3回にわたってトラクターでの耕うんや整地の作業を実施しました。当日のイベントでは、近隣の方々を中心に、ヤンマーグループからの参加者を含めて約200名が参加。9エリアに分かれ、約1キロにわたってレンゲの種まきを行いました。

今後も地域活動の一環として、淀川沿岸の景観形成を目指す同プロジェクトに協力していきます。



トラクターでの耕うん作業



## 地域に根ざした各サイト・グループ会社の活動

### ● 地域の小学生を招いて、工場見学を実施

特機エンジン事業本部では、尼崎工場における取り組みを地域の皆様にご理解いただくため、近隣の方々を対象とした工場見学を随時実施しています。

2013年8月7日には、近隣の小学生とその保護者の方々を招いて、工場見学会を開催しました。従来は工場の建屋入口から内部を見ていただく程度の内容でしたが、今回は通常の工場見学に近い見学ルートを設定しました。

当日は当社エンジンに関する説明を行った後、工場の内部に入っただき、エンジンの主要部品であるシリンダーやクランクなどの製造をはじめ、エン

ジンの組み立て、試運転などの各工程を約1時間にわたって見学していただきました。



工場見学

### ● 琵琶湖岸でヨシの植栽に参画

ヤンマーでは、ながはまアメニティ会議（滋賀県長浜市）の趣旨に賛同して、地域の環境保全活動に参画しています。長浜市と当社は古くから結びつきが深く、現在も市内で工場を操業しているため、地域貢献の一貫として活動に努めています。

2012年10月27日、長浜市内にある琵琶湖の北東岸で、ヨシ原の復活を目指してヨシの植栽が行われました。ヨシの群落は古来、琵琶湖の原風景であり、魚介類や野鳥の繁殖に欠かせません。また、ヨシは琵琶湖の水質浄化や湖岸の浸食防止、葦簀などの生活用品の材料確保としても貴重な資源です。当日は当社の小形エンジン事業本部の6名を含む約80名が参加。ヨシの生育環境を整えるために湖岸の清掃を行った

のに続いて、ヨシの苗および苗用のマットを植栽しました。



ヨシ植え活動

### ● 永原工場の閉鎖により黒松を移植

永原工場（滋賀県長浜市）を閉鎖することにもない、工場の敷地内で長く愛されてきた黒松（計31本）を、2013年3月にヤンマーキャステクノ株式会社の甲賀事業部（滋賀県湖南市）に移植しました。

すべての黒松を枯らすことなく移植するため、作業は専門の園芸会社に委託。同事業部の駐車場内に移植場所の造成作業をあらかじめ行った後、黒松を掘り起こして運搬し、移植作業を無事に完了しました。

移植後、半年以上が経過した今、黒松は元気に育っています。今後、甲賀事業部における緑地化の推進と

景観の向上、環境保全の一環として大切に手入れをしていく考えです。



移植した黒松



## 海外での社会貢献活動

### ● 社内くじの収益金の一部を赤十字社に寄付(フランス)

2012年12月末、Yanmar Construction Equipment Europe S.A.Sは、お客様および取引先からいただいた贈り物を賞品とし、従業員の間で1枚あたり1ユーロの

抽選会を実施しました。これにともなって生じた収益の一部を、St Dizier市の赤十字社に寄付しました。

### ● 地域のボランティア団体にエンジンを寄贈(オランダ)

Yanmar Europe B.V.は、地域貢献の一貫として、ボランティア団体Almeerse Reddings Brigadeの活動に協賛しています。本社のあるAlmereでは、水辺で暮らす人々が多数存在し、生活環境の向上が課題となって

います。団体ではこうした人々への支援活動を行っていることから、同社は2013年から2014年初めにかけ船舶用のエンジンを2基、寄贈します。

### ● 地域活性化に取り組む基金の活動を支援(オランダ)

Yanmar Europe B.V.は、本社のあるAlmereで活動する基金「Het Almere Fonds」の活動を支援しています。この基金はAlmereにおける社会経済の環境を向上させることを目的に、地域の有力企業が活動資金を

提供して設立されました。経済および文化、教育に対する活動を財政面で支援することで、Almereの地域活性化をめざしています。同社は資金を提供することで、基金の活動を応援しています。

### ● 地元の生徒を招いて職場見学会を開催(北米)

2013年3月、Tuff Torq Corporationは、地元の学校から生徒を招いて職場見学会を開催しました。これは学校と提携している地元企業が職場を開放し、生徒に仕事や技術を見てもらうことで、就業意識を高めることを目的とした取り組みです。毎年開催されており、今回で16回目となります。当日は在庫管理や機械加工、検査、組み立てなどの部署を生徒に公開し、仕事の現場を見ていただくことで、職業や技術への関心を高めてもらいました。



### ● 万一に備えた緊急対応要員の研修を実施(北米)

Tuff Torq Corporationでは、万一の事故が発生した場合に備えて、赤十字社の指導と認定に基づき、応急手当や心肺蘇生、自動体外式除細動器の操作を行うことができる緊急対応要員を社内に配置しています。

2012年12月、米国労働安全衛生局(OSHA)の最新の科学的なガイドラインに基づく応急手当の研修を実施しました。現在までのところ、社内では軽微な負傷しか発生していませんが、重大事故による重症にも対応できるように、今後も研修を継続していきます。



### ● クリスマスに贈り物を届ける奉仕活動(北米)

Tuff Torq Corporationは、地元の小学校や幼稚園との連携のもとで、クリスマスの奉仕活動を行っています。2012年12月、小学校の校長先生と相談の上で、失業中のシングルマザーなど経済的に恵まれない家庭を10組ほど選び、同社の社員が、子ども用のプレゼントや衣類、食品などをそれぞれの家庭に届けました。

一方、幼稚園に対しては、子どもたち一人ひとりに本を贈る活動を行っています。これによって子どもたちに読書の楽しさを提供したいと考えています。



### ● 家づくりのボランティアに参加(北米)

Transaxle Manufacturing of America Corp.は、自立支援型NGO「Habitat for Humanity」の活動を支援しています。その一つが貧困や災害から立ち直ろうとする人々のための住宅の建設です。同社では、従業員

および会社が建設費用の一部を寄付しているほか、社長をはじめ従業員の有志が週末に集まって建築作業に従事しています。

### ● 従業員が地元の小学校で出前授業を実施(北米)

Yanmar America Corp.は、地域社会に貢献する取り組みの一つとして、従業員を派遣して小学校での出前授業を行っています。小学校の高学年を対象に、従業員が自らの仕事について語るとともに、今後の進路

についての議論の場を提供しました。こうした活動を通じて、同社は子どもたちの就業意識を高めていきたいと願っています。

### ● 地域農場の生産活動を支援(北米)

Yanmar America Corp.は、活動拠点のあるジョージア州AdairsvilleとCalhounの、50エーカーの地域農場における生産活動を支援しています。具体的には、

5年間にわたってトラクターおよび作業機を無償貸与してきました。また、農場で収穫された作物は、これまでに約5000人の地域住民に提供しています。

### ● 高校修了認定資格の取得を支援(北米)

Yanmar America Corp.は、非営利団体「Advance Adairsville」と提携して、2013年からAdairsville市民のGED(高校修了認定資格)プログラムの取得を支援しています。GEDの取得を促すことで、就業の道を開

くことが目的です。これまでに81名がGEDのクラスに参加し、そのうち18名がGEDを取得しました。また、新たに25名がクラスへの参加を希望しているなど、着実に成果を上げています。

# Corporate Profile

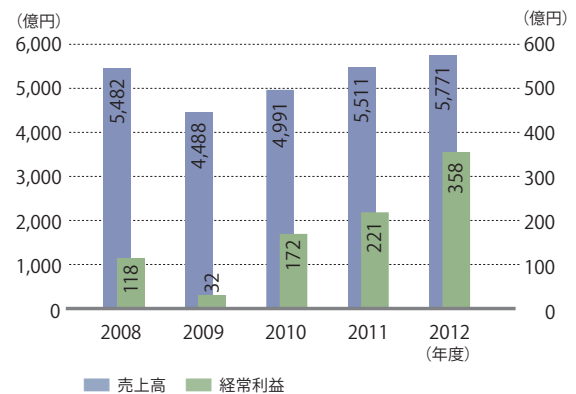
## 会社概要

### 会社概要

|                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 社 名                    | ヤンマー株式会社                   |
| 本 社                    | 大阪市北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー       |
| 東京支社                   | 東京都中央区八重洲2-1-1             |
| 創 業                    | 1912年(明治45年)3月             |
| 資 本 金                  | 63億円                       |
| 代表取締役<br>会長 兼 社長       | 山岡 健人                      |
| 売 上 高<br>(2012年度)      | 5,771億円(連結)<br>3,057億円(単体) |
| 従業員数<br>(2013年3月31日現在) | 16,055名(連結)<br>3,314名(単体)  |

### 財務ハイライト

#### ■ 売上高・経常利益の推移(連結)



#### ■ 2012年度トピックス一覧

- 2012年5月
- 会員制体験型農園「ヤンマー遊悠ファームとよの」オープン



- 2012年8月
- 第42回機械工業デザイン賞にAG6114/AG7114が審査委員会特別賞受賞



- 2012年10月
- 中央研究所に信頼性技術センターが竣工



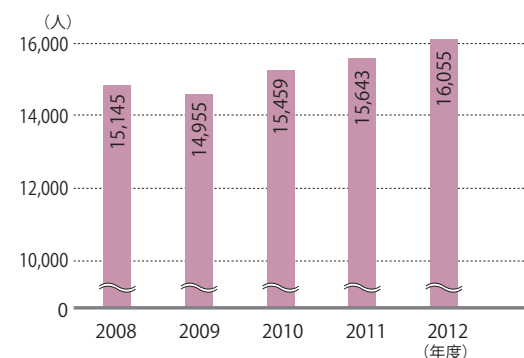
- 2013年3月
- ヤンマーミュージアムがグランドオープン



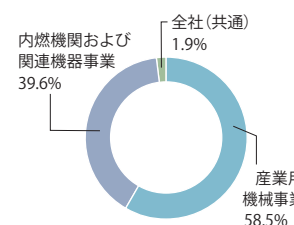
- ベトナムにおける駐在員事務所の設立



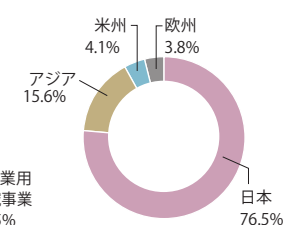
#### ■ 従業員数の推移(連結)



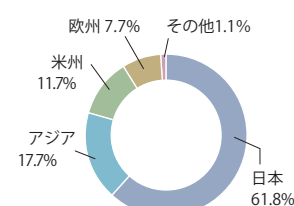
#### ■ セグメント別 売上高比率 (2012年度)



#### ■ 地域別 従業員比率 (2013年3月31日現在)



#### ■ 地域別 売上高比率 (2012年度)





## ヤンマーグループネットワーク

### ヤンマーホールディングス株式会社

本社

### ヤンマー株式会社

本社

東京支社

中央研究所

#### ■ 小形エンジン事業本部

- びわ工場 ● 山本工場
- 木之本工場 ● 大森工場
- 永原工場 ● 長浜

#### ■ 特機エンジン事業本部

- 尼崎工場

#### ■ マリン事業部

- 塚口工場

#### ■ 農機事業本部

### 国内主要関係会社

- ヤンマー農機販売株式会社
- ホクトヤンマー株式会社
- ヤンマー農機製造株式会社
- 株式会社神崎高級工機製作所
- ヤンマーエネルギーシステム株式会社
- ヤンマーエネルギーシステム製造株式会社
- ヤンマー建機株式会社
- ヤンマー船用システム株式会社
- ヤンマー造船株式会社
- ヤンマーキャステクノ株式会社
- ニューデルタ工業株式会社
- 共立イリゲート株式会社
- ヤンマー物流サービス株式会社
- コーリンエンジニアリング株式会社
- ヤンマーグリーンシステム株式会社
- ヤンマーエンジニアリング株式会社

### 海外関係会社

#### 北米・中南米

- YANMAR AMERICA CORP.
- TUFF TORQ CORPORATION
- TRANSAXLE MANUFACTURING OF AMERICA CORP.
- MASTRY ENGINE CENTER LLC, A YANMAR COMPANY
- YANMAR SOUTH AMERICA INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.

#### 欧州

- YANMAR EUROPE B.V.
- YANMAR MARINE INTERNATIONAL B.V.
- YANMAR ITALY S.p.A.
- YANMAR CONSTRUCTION EQUIPMENT EUROPE S.A.S.
- YANMAR R&D EUROPE S.R.L.
- YANMAR INTERNATIONAL EUROPE B.V.
- YANMAR BENELUX B.V.
- YANMAR NORGE A.S.
- YANMAR SVERIGE A.B.
- YANMAR EQUIPMENT IBERICA S.L.

### 海外(ヤンマー駐在事務所)

- YANMAR CO., LTD. - MOSCOW REPRESENTATIVE OFFICE
- THE REPRESENTATIVE OFFICE OF YANMAR CO., LTD. IN CAN THO CITY

#### アジア

- 洋馬発動機(上海)有限公司
- 洋馬発動機(山東)有限公司
- 洋馬農機(中国)有限公司
- 哈爾濱洋馬農業機械有限公司
- YANMAR AGRICULTURAL MACHINERY (KOREA) CO., LTD.
- YANMAR ASIA (SINGAPORE) CORPORATION PTE. LTD.
- YANMAR S.P. CO., LTD.
- YANMAR CAPITAL (THAILAND) CO., LTD.
- P.T. YANMAR DIESEL INDONESIA
- P.T. YANMAR AGRICULTURAL MACHINERY MANUFACTURING INDONESIA
- P.T. YKT GEAR INDONESIA
- P.T. YANMAR INDONESIA
- P.T. KANZAKI TJOKRO MACHINE TOOLS INDONESIA
- YANMAR INDIA PRIVATE LIMITED
- YANMAR KOTA KINABALU R&D CENTER SDN. BHD.

## 編集にあたって

本報告書は、ヤンマーグループを取り巻くさまざまなステークホルダーの皆様へ、当社グループのCSRに対する考え方や取り組み状況、2012年度の実績を報告し、双方向のコミュニケーションを通じて活動内容の向上につなげることを目的として、毎年発行しています。

掲載情報は、当社グループにとっての重要性和社会にとっての重要性の観点から選定し、ISO26000※の中核主題に沿って掲載しています。数値・データ等の詳細や過去の活動内容などは当社Webサイトに掲載しています。

※ISO26000は、2010年11月に国際標準化機構より発行された社会的責任に関する国際規格で、組織の持続的な開発への貢献を支援することを意図したガイダンス(手引書)です。

## 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」  
GRI「サステナビリティリポーティングガイドライン第3版」、ISO26000

## 報告対象時期

本報告書の活動内容、データは、2012年度(2012年3月21日から2013年3月31日)実績を原則としていますが、一部には、2013年度の事項についても報告しています。

## 報告対象組織

基本的には、ヤンマーグループ全体とします。ヤンマー株式会社のみ、もしくは特定の地域や関係会社に限定される事項の報告については、本文中にその旨を明記しています。

また、本報告書で「滋賀地区」とは、滋賀県一円で小形エンジンなどの生産をしているびわ工場、山本工場、木之本工場、開発・試験などを行う長浜サイト、精密機器を生産している大森工場、永原工場を表します。

「尼崎地区」とは、兵庫県尼崎市で大形エンジンなどの生産をしている尼崎工場、船用エンジンを生産している塚口工場を表します。

## 報告書発行

2013年12月(次回発行:2014年10月予定)

# YANMAR

お問い合わせ先

**ヤンマー株式会社**

CSR部 企画グループ

〒530-8311 大阪市北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー

TEL : 06-6376-6258

FAX : 06-6373-9272

<http://www.yanmar.co.jp/>

